

# 教育における地域性の研究

## ——興津小中学校の学校保健の実態——

小松 寿子・下 司 敬 子・山 岡 美 代

(高知大学教育学部保健教室)

——昭和39年 6 月10日——

## The study of a locality in education

### ——Research on the actual state of health education in the primary and secondary school of Okitsu in Kōchi prefecture——

By

Toshiko KOMATSU, Keiko GESHI and Miyo YAMAOKA

(Laboratory of Health, Faculty of Education, Kōchi University)

## 目 次

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| I はじめに                  | 1, 2 年は口答で, 小学校 3 年以上は筆答 |
| II 興津の概況                | によって調査した。その集計            |
| III 子どもたちの生活            | 5. 同盟休校当時の子どもたちの作文など     |
| 1. 家庭における教育環境のあらまし      | 6. CMI 健康調査票などによる調査集計例   |
| 2. 学校内における教育環境のあらまし     | IV ま と め                 |
| 3. 健康診断の成績              | V 文 献                    |
| 4. 質問事項「22」を予め用意して, 小学校 |                          |

## I は じ め に

報道機関によって, 昭和36年 4 月, 9 月, 10 月と昭和37年 7 月の前後 4 回にわたって同盟休校が報ぜられた。この興津小中学校は, 僻地教育指定の 1 級地の学校である。

わたくしたちは, 数年来沖の島, 鵜来島の児童生徒の体位, 疾病や教育環境などについて調査をつづけてきている。

わたくしたちは, さしあたっては学校保健の立場から研究を進めているわけであるが, この研究は高知県のなかの後進性を解明するための基礎的資料を提供し得るものになり得ると考えている。

またわたくしたちが本研究を引き続いて押し進めることができるときは, 人間相互間の不和, 青少年の非行, 社会腐敗の原因などが次第に解明されてくることが期待でき, ひいては高知県民の福祉の向上にも若干の貢献をなし得るものと信じている。

地域差はあるが, 僻地は封建性が強く, 住民の教育程度も一般に低く, 根拠のない因習, しきたり, 迷信などの非科学的な習慣が残っている。

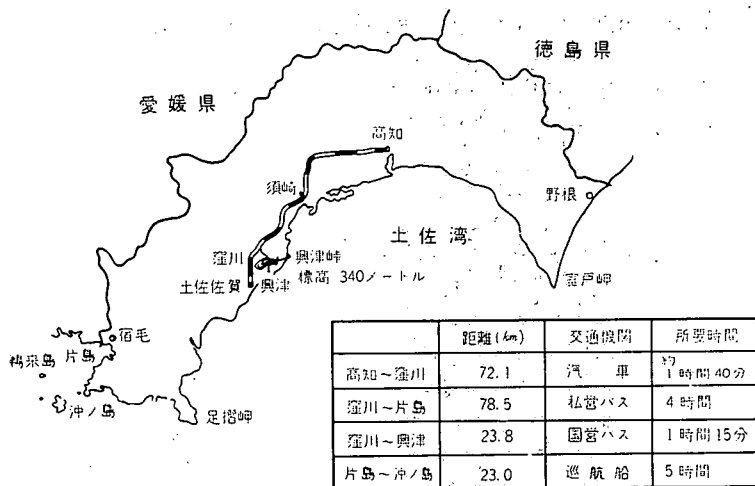
さらに都会生活の悪い風潮だけが浸透して, 前近代的感觉と近代的悪潮とが混合し精神的に不健全な社会的環境を形つづけている。このような事態を改善し, 人間関係を調整していくには, 地場産業を発展させて経済的ゆとりを生じることが先決問題である。

子どもたちに生活の目標を確立させ、将来の幸福を自ら確保できるような教育を進めていくとすれば、まず地域の実状に応じた保健問題の解決、教育計画、実際の指導計画を立案し展開していく必要に迫られる。

## II 興津の概況

興津は国鉄土讃線窪川駅から国営バスで約1時間15分で到着する。

第1図



注 県道は昭和8年、バスは昭和25年に開通。それまでは毎日船便が1日1回上り「高知行」と下り「宿毛行」があって小室の築港の外側に着いた。浦の港は浅く、港口が狭く特に干潮の時は小さい船の「出入りが困難」である。小室の港は干潮でも「出入り」が出来る。悪天候や波のある時は2～3日、台風の季節には約7日間も欠航した。

標高約340mの山で3方を囲まれ、太平洋に面している白砂青松の風光明媚な県立公園で、これは郷、浦と小室の3地区からなっている。

第2図 興津峠からみた3地区



バス便は1日3便である。興津峠を曲がり曲がって窪川につながるただ1つの道路は、降雨や台風ごとに崖崩れ、倒木や濃霧などで不通となる。

昭和38年3月19日に、興津在住の郷土史家岡部金重氏から土地の歴史と住民の「くらし」の現状打開の必要性について教えられた。そのあらましをのべる。

いつ頃から、人が住みついたかについては、八幡宮に保存されていた古文書が宝永4年10月4日(西紀1707年)の大津浪で流失したためあきらかでない。

八幡宮は1086年前に建立され六柱神を祭っており、真言宗の西宝寺には観音ぼさつを安置してある。このぼさつは約千年前に、行基によって開眼された。このほかに約700年前に建てられた禪宗の円蔵寺と、あちこちに石地蔵がある。

人皇第102代後土御門天皇の応仁元年(496年前)従一位関白一条教房は、土佐の豪族岡豊<sup>ここう</sup>の城主長曾我部文兼の請を入れ一条家代々の荘園地たる幡多郡中村に居を移そうとした。

応仁2年9月6日、教房はその子房家と共に和泉の国堺の港を出発して海路土佐中村へと向ったが、興津の岬を過ぎようとした時風波が起って船を進めることができず船を右方曲浦の岩陰に寄せて上陸し、暫くの間にこの浜辺に滞在することになった。

この時教房が濡衣を打ちかけほした小岩あり、これが今なお多くの人たちに親しまれている衣岩であり、現在小袖橋よりのたもとにある。又の名を小袖岩という。(小室の浜側)

教房はこの浜を「御室の浜」と名づけたが後世、土地の人びとが御室は畏れ多いということで、小室<sup>おむろ</sup>の文字を用いるようになった。また、教房は東の方の山を「東山」と名づけ、山裾に流れ込んでいる川を「後川」と名づけた。

上述の八幡宮には応仁天皇、神功皇后、武内宿禰、田心姫命、湍津姫命と市杵嶋姫命の六柱神を祭ってあるがその祭日には、中村から騎馬で参詣した。

興津村誌によれば

「古老曰く本村に御室浜<sup>おむろのへ</sup> 島戸浜<sup>しまどのへ</sup> 杓子浜<sup>しやくしのへ</sup> 荒平浜<sup>あらひらのへ</sup> と四浜あるを以て往時四ツ浦、四ツ村と呼称せしを年号干支詳ならず、与津の文字に革めしと」あり、爾来与津村と呼んでおりましたが、昭和23年5月3日憲法発布記念日を以て「往古興津郷と称えられし」を復帰し当時の高知県知事の認可を得て興津村と呼ぶようになった。

今から約60年前は、八幡宮の境内の下は池であったが隆起してきて現在のようになった。今の中学校の後は「内船蔵」、下は「波脊折<sup>なみせおり</sup>」と呼ばれていることなどから、昔は波がきいていたことが想像される。

今から約60年前は、郷と浦はそれぞれ戸数約230、小室は24であった。郷と浦は現在300戸、小室は昭和の始めごろ約60戸で、現在は約110戸となっている。

交通機関は、昭和8年に県道ができ、国営バスは昭和25年から通い始めた。それまでは定期船で小室⇔東又志和⇔上ノ加江⇔久礼⇔須崎⇔高知となっていた。

郵便は東又局から1日1回の便となっている。

興津の面積は右のようにになっている。

職 業

農業、漁業、半農半漁、日やとい、その他の順になっている。

飲料水

第1表 昭和32年度調査

人	口	
戸	数	3,400名
		720戸
	田	832反
	畑	711反
宅	地	33,163坪
官	有	6,748反
私	有	6,878反
そ	の	63反
	他	
	官 有 地	6,748反
	私 有 地	8,484反
合 計	宅 地	33,163坪

簡易水道が設置されて浦と小室地区は昭和36年度に送水が始まっている。郷地区にはない。簡易水道の水量は不足して、送水できない場合が相当日数ある。

郷地区では約120戸が促成園芸、主としてキュウリの栽培で1億4,5千円の収入をあげているが、これも限界にきている。

養鶏、果樹園芸など、副業について科学的に、系統だって研究し実益をあげるようにすることが重要であると考えている。消費地と離れていて、トラックで運ばねばならないので、1時間余りも坂道でゆられても損傷をうけない「みかん」類の研究がよいように考える。

教育によって立派な健康で、強い生活意欲と粘り強く、辛棒のある正しい人をつくって、狭い興津から新しい広い天地で活躍し、生業につくようになることが、一番望ましい。

以上が岡部金重氏の談話を抜き書きしたものである。

人口、戸数、生活保護家庭数と人口動態はつぎのようになっている。

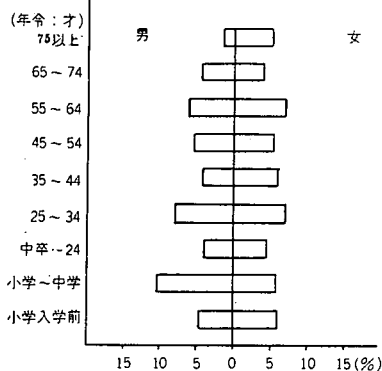
第2表 窪川町興津人口、戸数および生活保護家庭数

昭和36年3月25日 窪川町役場興津支所で調査

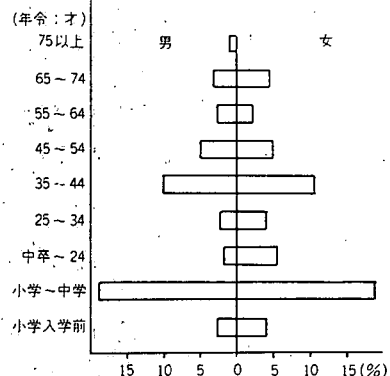
	郷	浦	小 室
人 口	935 名	933 名	484 名
戸 数	246 戸	238 戸	142 戸
生 活 保 護	12 戸 (4.88%)	20 戸 (8.40%)	46 戸 (32.39%)

興 津 の 人 口 構 成

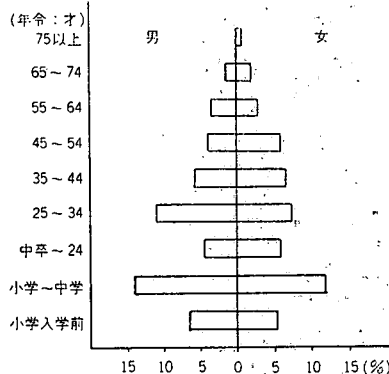
第3図 郷地区



第4図 浦地区



第5図 小室地区



3地区とも女子が男子より多く、75才以上の女子も男子より多くなっている。25才から34才の人数とと小学入学前の子どもたちは小室地区に一番多く、つぎに郷地区で浦地区が少い。

第 3 表

			郷	浦	小室
昭和38年 3月25日現在	窪川町役場興津支所で 調査した人口と戸数	人 口 戸 数	935 246	938 238	484 142
昭和38年 2月25日→昭和38年 3月26日調査	各自が任意に調査した 人口と戸数	人 口 戸 数	135 } 275 140 } 58	110 } 229 119 } 52	183 } 379 196 } 92

第 4 表 高知大学卒業生ならびに在学生在をふくめて15名が各自任意に戸ごとに訪問し疾病の有無をたずねて、予め疾病名を印刷した調査票へ記入した。その調査票の集計

昭和38年 2月25日～昭和38年 3月26日調査

病 名		郷 (58戸)			浦 (52戸)			小室 (92戸)		
		男 135	女 140	計 275	男 110	女 119	計 229	男 183	女 196	計 379
		男 %	女 %	計 %	男 %	女 %	計 %	男 %	女 %	計 %
眼 病	ト ラ ホ ー ム	0	0.71	0.36	0.91	1.68	1.31	6.56	7.65	7.12
	結 膜 炎	0.74	1.43	1.09	0.91	0.84	0.87	2.73	4.08	3.43
	角 膜 炎	0.74	0.71	0.73	0	0	0	1.64	1.53	1.58
	夜 盲 症	0	0	0	0	0	0	4.37	3.06	3.69
耳 鼻 疾 患	中 耳 炎	7.41	1.43	4.36	1.82	2.52	2.18	8.74	7.14	7.92
	ち く 膜 症	2.22	4.29	3.27	2.73	5.04	3.93	5.46	9.18	7.36
消 化 器 疾 患	胃 炎	6.67	5.71	6.18	2.73	5.88	4.37	24.04	22.96	23.48
	胃 下 垂	0	1.43	0.73	0	0	0	0.55	2.55	1.58
	十 二 指 腸 炎	0	0	0	0	0	0	1.09	1.02	1.06
	肝 臓 疾 患	3.70	1.43	2.55	0.91	1.68	1.31	15.03	10.71	12.93
	黄 疸 症	0.74	1.43	1.09	0	0	0	1.64	2.55	1.85
	腸 炎	1.48	2.14	1.82	1.82	1.68	1.75	9.84	10.20	10.03
	胆 の う 炎	0	0	0	0	3.36	1.75	7.10	7.14	7.12
循 環 器 患	盲 腸 炎	0.74	2.14	1.45	0.91	0	0.44	2.62	4.08	3.43
	高 血 圧	8.15	4.29	6.18	7.27	3.36	5.24	3.28	1.02	2.11
甲 狀 腺 患	貧 血 症	0	0.74	0.36	0	4.20	2.18	4.92	10.20	7.65
	甲 狀 腺 肥 大	0	0	0	0	0.84	0.44	9.84	18.88	14.51
神 經 系 疾 患	神 經 痛	15.56	18.57	17.09	11.82	11.76	11.79	19.67	28.06	24.01
	ロ イ マ チ ス	0	2.14	1.09	1.82	3.36	2.62	3.82	8.11	6.07
	頭 痛	0.74	7.14	4.00	1.82	6.72	4.37	9.29	17.35	13.46

注：浦地区甲状腺肥大者は「女 15才 1名」

小室地区甲状腺肥大者は、「男 18名、女 37名、合計 55名」

第5表 高知大学卒業生ならびに在学学生をふくめて15名が各自任意に戸ごとに訪問し疾病の有無を質問し、手術を受けた疾病名と摘出臓器名を疾病名印刷の調査票に記入した結果の集計

昭和38年 2月25日～昭和38年 3月26日調査

手 う 疾	術 け 病	を た 名	氏 名		性 別	年 令	摘 出 臓 器	人 数
			男	女				
筋 肉 炎		伴○ 浜○ ○	○	○	38 12 12		男女 } 3	
手		中○ 伴○ ○	○	○	31 24 12		男女 } 3	
足		細 ○		○	49	左腰部	女 1	
脱 腸		伴○ 立○ 松○ 山○	○	○	2 61 15 13	腸	男女 } 4	
盲 腸		松○ 濱○ 函○ 伴○ 山○ 山○ 三○ 中○ 中○	○	○	15 61 27 26 56 52 13 23 32 42 61 19	盲 腸	男女 } 12	
胆のう炎		浜○ 山○ 岩○ 梶○ 市○ 浜○ 三○ 東○ 山○	○	○	45 57 13 48 31 53 24 52 52 46	胆のう	男女 } 10	
肝 臓 炎		岩 ○		○	48		女 1	
ヘルニヤ		三 ○		○	12		女 1	
喘 息		竹 ○	○		51		男 1	
穿 孔 性 腹 筋 炎		市 ○		○	39		女 1	
特 殊 性 脱 肛 症		市 ○	○		43		男 1	
慢 性 脱 肛 症		岩 ○	○		37		男 1	
乳 ガン		浜 ○		○	45		女 1	
脊 髄		浜 ○	○		21		男 1	

手 う 疾	術 け 病	を た 名	氏 名		性 別	年 令	摘 出 臓 器	人 数
			男	女				
肋 膜 炎		○ ○		○	33		男 1	
子 宮		三○ 三○ 三○ 浜○ 細○ 山○ 山○ 伴○ 松○ 東○ 東○ 山○ 伴○ 三○ 岩○		○	29 29 37 49 32 38 46 28 36 39 23 21 29 48	子 宮 子 宮 子 宮 卵 巢 子 宮 子 宮	女 14	
甲 状 腺 肥 大		東○ 寺○ 山○ 市○ 市○ 中○		○	38 19 34 36 38	甲 状 腺 " " " "	男女 } 5	
リンパ腺		東○ 岩○ 伴○ 三○		○	13 58 20 11		男女 } 4	
そ こ ひ		中 ○		○	71			
ト ラ コ ー マ		船○ 船○ 東○ 伴○ 山○<						

第6表 小室地区民のあいだで気づいている甲状腺肥大者数

昭和38年3月2日調査

小室地区民への質問	答へた人数
	——小室地区の2.3名が話し合つて数えあげた人数——
1. 甲状腺の大きい人は何人いますか	28
2. 甲状腺が大きくて甲状腺の手術をうけた人は何人いますか	4
3. 甲状腺が大きくて甲状腺の手術をうけたいと希望している人は何人いますか	1

第7表 問診、視診と触診による甲状腺肥大者数

昭和38年2月25日～昭和39年4月6日調査

	地 区 名	人数 (名)	備 考
各戸ごとに訪問して疾病の有無をたずね病名を印刷した疾病調査票に記入した。その疾病調査票によって集計した人数 昭和38年2月25日～昭和38年3月26日調	郷 浦	0	
		1	女 15才
	小 室	55	後日3名県外転出
その後増した人数	"	23	38年10月14日増
	"	10	39年1月15日増
	"	2	39年3月20日増
	"	1	39年4月6日増

第8表 小室地区夜盲症罹患者数

昭和38年2月25日～昭和39年1月15日調査

20 名 (No. 1～No. 20)	男 11 名		女 9 名	
	大 人	子 ど も	大 人	子 ど も
	9 名	2 名	6 名	3 名

注 No. 1～No. 14: 各戸ごとに訪問し疾病の有無をたずね病名を印刷した疾病調査票に記入した。  
その疾病調査票によって集計した人数である。

調査票による集計の結果(第4表参照)胃炎、肝臓疾患、神経痛、甲状腺肥大、頭痛、腸炎、貧血症、中耳炎、ちく膿症、トラホーム、胆のう炎などに罹患していると答えた数が約24%から7.1%になっている。小室地区民には夜盲症が約4%もあった。

興津住民は、寄生虫検査とその駆除、健康相談、食物内容の調査と栄養指導など積極的な保健的措置をうけたこともないし、また保健所の役割や保健婦の仕事についても関心をもっていなかったかのように認められた。

わたくしたちが調査を始めてから約2ヶ月後の4月下旬に興津専属の保健婦が窪川町役場興津支所に配属された。

「僻地教育の問題について」の共同研究者の1人である高知大学文理学部山崎重明教授の発案によって、上述の疾病に対する施策の1つとして「チャパチー」を朝倉のパン屋に依頼してつくった。昭和38年5月3日興津の人びとに栄養問題に関心を持ってもらう「キッカケ」をつくることを念願して興津に持参して供した。

チャパチーは世界において驚異的な健康を保っているヒマラヤ山脈中の独立国フンザ国民の常食である。(第9, 10表参照)

第9表 チャパチー

成 分	量
玄小麦 精白しないもの	2升
“大” “	1升
“キビ” “	1升
ソバ粉	1升
大豆 精白しないもの	1升
玄ゴマ “	6合

上記の材料を粉砕器で粉にしたものを混合してイーストで製パンする。225コつくれる。直径8cm 長さ15cm大のパンである。

第10表 チャパチー1コ当りの成分含有量 (分量 g)

玄	玄	玄	ソ	大	玄	砂	バター(マーガリン)	塩	イ	甘
小	大	キ	バ		ゴ				ー	味
麦	麦	ビ	粉	豆	マ	糖			ス	剤
					(黒)				ト	少
11.56	5.78	5.78	4.89	5.78	4.44	3.82	1.91	0.57	3.15	微量

甲状腺肥大者の腫脹所見 (第6図→第8図参照)

第6図



第7図



第8図



昭和38年5月5日(雨)に興津小中学校の井戸水、小室地区民家の井戸水、浦と小室地区の簡易水道の家庭給水栓からそれぞれ、採水して細菌学的検査を実施した。当日の5つのサンプルは、大腸菌群をいずれも認めた。事後措置として井戸水消毒装置と消毒方法の印刷物を小中学校や地区民に配布して消毒の必要性を伝えた。昭和39年4月6日現在小中学校の井戸水は消毒装置もなく、消毒薬投入による消毒も実施されていない。

#### 知識の欠乏状態

僻地とはいいいながら甲状腺肥大が集団的にあって「首がはれるなあ(のは)血すぢぢゃ。わしんくは血すぢぢゃないけに、ふとおなかろうがや。あれんくかあは、血すぢぢゃ。しょうもないことぢゃに。昔からここにゃあるがじゃ。われら(あなたたちは)。こんにしらべてなにしてくかあ。」と小室地区民はわたくしたちの調査にたいして所感をのべた。

夜盲症についても「日のくれかたが、きよったら物がみえん。とり目も昔からこのしにゃ(人々には)5人や6人はいつつもあるけん。」と小室地区民は仕方のないことだとあきらめている。



日常の食物内容についてのわたくしたちの調査成績からこのような疾病に罹患することは肯定できる。

寄生虫が口腔内へ出てきても駆虫薬を服用することに気がつかないようである。また「砂糖をたべると虫がわく。」ともいっている。小室地区民は砂糖をほとんど摂取していない。疾病治療にはでかけても疾病予防について全く考えていないようである。

昭和38年5月5日に、わたくしたちはこのような疾病を考慮にいれた材料を準備して小室地区へおもむいて栄養料理を実施した。約80名の参加をみた。熱心な質問が連発した。

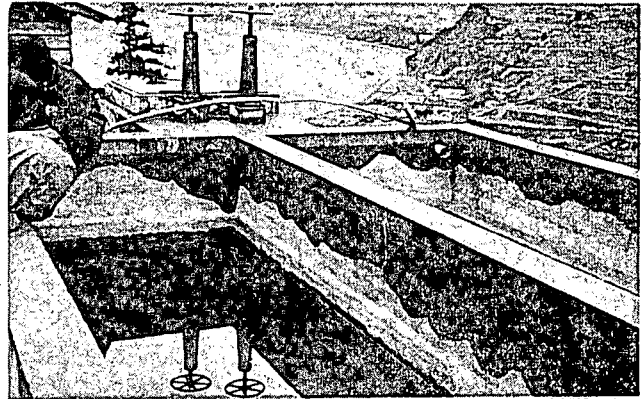
料理をつくりながら、栄養と疾病との関係、栄養と価格との関係などを話しているなかに「わしらあ、今まで栄養じゃ料理法じゃというものを知らざったけに、いろいろな病気にかかったのじゃ」また「栄養失調で病人がふえ、医者にかかって、どっさりお金をかけるより、健康でおいしくたべるように」などの会話がアチコチから聞えてきた。今までのような食生活をしてはいけないということがわかったようである。

「向上の意欲はある。」ということ把握することができた。ここに教育と政治の問題がある。

郷地区では農業協同組合の婦人部がこれまでに2回料理講習会を開いたことがあるが、浦と小室地区では一度もなかったという。

第2図参照のように郷地区は肥沃した田畑を耕作していて広い家と庭があり、促成園芸による収入で比較的豊かに生活している家が多い。郷地区では米反当り約7俵

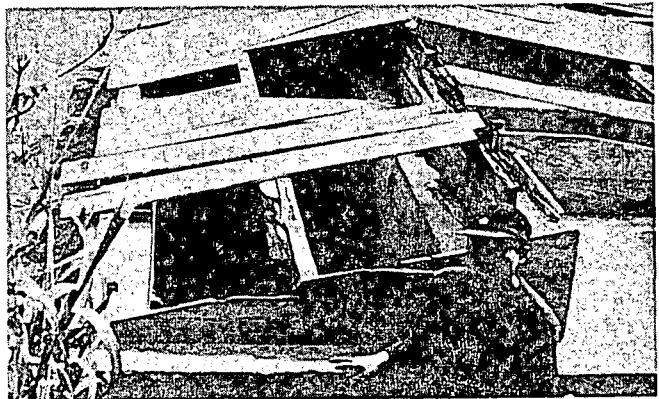
第9図 小室地区簡易水道水源池



水量が少ない

昭和38年2月下旬小室地区は48時間中1時間、浦地区は24時間中3時間給水していた。覆板がない。

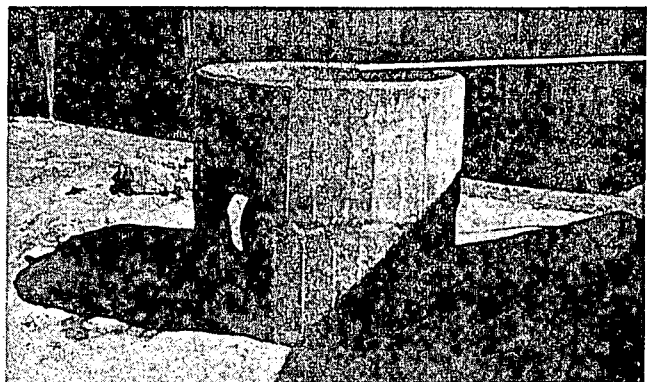
第10図 宿毛市沖の島町鶴来島地区簡易水道水源池



水量が少ない

昭和38年3月上旬鶴来島では水道水は断水して、地区民は「臭い、浮游物、濁濁」のある井戸水を時間をおいて汲み上げて利用していた。覆板は破損している。

第11図 小室地区民の共同井戸の例



降雨で地下水が増量すると井戸枠の横穴から流出するようになっている。消火用ホースを挿入することもある。

の収量のようなのである。小室地区は海に面した狭い土地に約150戸の民家が(第2図と第20図参照)密集している。生業といっても西の宿毛から東の野根にいたる高知県の沿岸漁業は不振で、ここ小室地区でも漁業に頼ることができず耕地は狭く急傾斜の山を頂上まで開いた瘦地の段々畑と、田植時には腹部から胸部まではいってしまうわづかな段別の小室地区外にある湿田は豊作で、米1反当り3俵の収穫とのことで農業でも生計がたたず、ほかの仕事もない。生活保護費と失業対策事業費の適用を受けている家庭が多い。浦地区は郷と小室地区の中間である。

小室地区の子どもたちの眼は落ちくぼんで光り、手足は細長く不調和である。顔色はあお白く、瞳は人なっく輝いている。しかし幼い子どもたちまで長い間の差別のなかで育てられた生活意識をもっている。

主食も副食物も購入しなければ、需要量を充たすことができない。副食物の種類は、概して1品だけで貯蔵食品もない。1品をなくなるまで食べる食生活で栄養的な配慮がなされていない。主食の上に醤油また塩をふりかけたり、小皿に少量の味噌を買い求めてきてそのままわけあって副食としている人びとをみかけた。これは送金の途絶えた学生のソーライ(白飯にソースだけかけて食する便法)に似ているが、恒久化している点に留意が必要である。

子どもたちの健康を保持し増進するために、その解決の方向を明らかにしなければならない。生活に追われ余裕のないなかでも、改善はなされなければならない。またその意欲を育てなければならない。

栄養を補給し立派な体をつくるためには、学校教育の一環としての学校給食が興津の現状では必要である。

子どもたちを取りまいてる現実には、一朝一夕で改善することはできないが、最低限、子どもたちを守り育てる教育のなかで保障されてよいもの、実現の可能性のあるものの「一つとして学校給食」が考えられる。子どもたちを社会の責任で、大人の努力で大切に育てなければならない。興津では昼食にはほとんどの子どもが家に帰っている。その子どもたちのなかに、家に帰っても食べることができず空腹を抱えて学校へまた出かけていっているのをみかける。

第2回目の料理指導は興津で採取できる海藻を利用して実施する計画である。1,2月頃は「あまのり」「あおのり」が採取できるし、3月末には「はば」「ふのり」「さくらのり」「ひじき」「うさぎのみみ」「も」「あんとか」「ちゃかす」などが採取できるとのことである。

興津の人びとが年間継続してヨウ素を食膳に気軽く、美味で、楽しく供することができるように一日も早くなりたいものである。

第11表 興津地区民寄生虫卵検査成績

検査方法：直接塗抹、集卵と培養法併用  
昭和38年2月25日調査

	ポリエチレン袋配布総数	材料提出 人 員	保 有 率					虫 卵
			回 虫	鞭 虫	鉤 虫	蟯 虫	ダニ卵	陽 性 率
			%	%	%	%	%	%
郷	200	68	4.41	55.88	13.24	0	1.47	60.29
浦	200	20	10.00	55.00	5.00	5.00	7.00	70.00
小 室	500	132	43.18	93.18	12.88	1.52	2.27	95.46

郷、浦、小室地区民に「寄生虫検査を実施するので区長を通してポリエチレンの袋を届けるから、その袋に大便をいれて提出してもらいたい」旨を各区長から連絡した。検査料は無料であることも申し添えた。その結果サンプル提出率は郷地区34%、浦地区10%、小室地区26.4%であった。

全地区民が自分からすすんで検便を希望して、集団駆虫を実施するように一日も早くなりたいものである。

郷と浦地区では農業協同組合のあっせんで駆虫薬を服用している地区民もいるようである。

小室地区では寄生虫駆除を実施していないとのことである。胆のう炎、腸炎、胃炎や貧血などの発病予防措置として集団駆虫を実施する必要がある。

わたくしたちは、甲状腺肥大者に対してとりあえず試験的にヨウ素剤（ヨウレチン錠、1錠中ヨウレシチン0.75mg含有）を、夜盲症に肝油ドロップを投与して治療効果の有無を観察することにした。





昭和38年10月14日から甲状腺肥大者でヨウ素剤（ヨウレチン錠）の服用を希望する人たちに1日1錠（ヨウレチン錠、ヨウレシチン0.75mg含有）宛服用してもらうことにした。当日の服用希望者は52名あった。

昭和38年11月24日、その経過と問診、視診、触診によって観察した。「ノギス」で縦径と横径を測定して昭和38年10月14日の計測値と比較すると小さくなっていた。とくに年少者の甲状腺肥大が小さくなっているのが目立った。

ヨウレチン錠服用者たちから、「首の<sup>〇</sup>うが<sup>〇</sup>よう<sup>〇</sup>な<sup>〇</sup>った<sup>〇</sup>きの<sup>〇</sup>。（首のぐあいがよくなりました。）めまいのくらくらがなくなった。のみはじめたら肩がこらんけん。頭痛がやまったがあ。目さきのちらつきもなくなったきのう。心どう（心臓）のどきつくのもやんだがや。いっ<sup>〇</sup>さ<sup>〇</sup>ん<sup>〇</sup>に<sup>〇</sup>。（一度に）もっとよけえのんだらいかんかあ。」などの訴えがあった。服用希望者は23名増して75名となった。

昭和39年1月15日、再度経過を観察するために小室地区に出向いた。地区民の血色がきわだってよくなっている。「ありがとう」という言葉や笑い声も聞えるようになった。

第12表 小室地区甲状腺肥大者にヨウ素剤（ヨウレチン錠、ヨウレシチン0.75mg含有1錠1日1回）を投与して薬効について観察した。そのなかから数例を表示した。

				昭和38年10月14日→昭和39年1月15日までの約3カ月後における局所の腫脹を比較した。			
				径測定値はミリメートル、測定にはノギスを用いた			
				縦径 × 横径	縦径 × 横径	縦径 × 横径	縦径 × 横径
	性	年 令		右 ←  側	左 ←  側	右 ←  側	左 ←  側
東	○	男	10	85 × 45	85 × 45	60 × 40	55 × 40
浜	○	女	12	70 × 60	57 × 50	38 ← × → 45	
浜	○	男	4	65 ← × → 95		腫 脹 消 退	
三	○	男	11	45 ← × → 85		38 ← × → 40	
山	○	男	12	70 × 70	70 × 60	50 ← × → 70	
寺	○	女	10	100 × 58	75 × 75	56 ← × → 80	
東	○	女	14	40 ← × → 50		腫 脹 消 退	

注 ヨウ素剤をもっと大量に投与する。甲状腺剤を併用してみるなど専門医による指導のもとに「治療と予防措置を進めていく」必要がある。

第13表 ヨウ素剤（ヨウレチン錠 1日1錠，ヨウレシチン 0.75 mg 含有）服用者数  
昭和39年4月6日現在

	服用開始の 年 月 日	No.	人 数	男 22名		女 63名	
				大人	子ども	大人	子ども
ヨウレチン錠（1錠中ヨウレシ チン 0.75mg 含有）服用希望者	38. 10. 14	1~55（3名転出）	52	7	9	19	17
	" 11. 24	56~78	23	2	2	10	9
	39. 1. 15	79~88	10	0	2	6	2
	" 3. 20	89~90	2	0	1	1	0
合計 88名	" 4. 6	91	1	0	0	1	0
			88	9	14	37	28

上記の県外転出者3名，地区外へ転出している甲状腺肥大者へはその家族がヨウ素剤を郵送しているようである。

小室地区の人びとの栄養状態が悪く，寄生虫駆除もおこなったことがなく，一人で数種類の疾病に罹患しているところから，ヨウ素剤の副作用を考慮し， $\frac{1}{6}$ ないし $\frac{1}{12}$ という少量投与を実施した。この程度は「栄養剤」としての取り扱いであるがつぎの写真のような効果が現れてきた。

ヨウ素剤（ヨウレチン錠，ヨウレシチン0.75mg，1錠1日1回）投与を昭和38年10月14日開始

第12図 昭和38年10月14日



第14図 昭和38年10月14日



→  
3カ月後の所見

第13図 昭和39年1月15日



第15図 昭和39年1月15日



→  
3カ月後の所見

第16図 昭和38年10月14日



第17図 昭和39年1月15日



→  
3 カ月後の所見

一日も早く精密検診を専門医によって実施されるようになりたいものである。その結果甲状腺剤やヨウ素剤による根本治療の行われることは教育環境の望ましい方向づけのためにも必要である。約3カ月後の昭和39年1月15日の所見である。(第12図→第17図参照)

高知大学卒業生ならびに在學生をふくめて15名が環境調査票、経済調査票、食品調査票に予め質問事項を印刷して、それについて戸ごとに訪問し、質問、応答の結果を、記入した。職業構成、便所、飲料水、風呂、住居などの環境、経済状態や食生活の調査は、各自が任意に実施した。その調査票の集計

第 14 表

		郷	浦	小 室
昭和38年3月15日現在	窪川町役場興津支所調査戸数	246	238	142
昭和38年2月25日→ 昭和38年3月26日調査	各自が任意に調査した戸数	58	52	92
各自が任意に 調査した戸ご との職業構成	漁業	1.9%	43.0%	41.0%
	農業	71.9%	8.5%	6.4%
	商業	0.0%	0.0%	3.8%
	半農半漁	7.5%	6.3%	1.3%
	失業者	0.0%	2.1%	7.7%
	公務員	4.2%	4.2%	14.1%
	教士	3.7%	2.1%	0.0%
	組合員	0.0%	2.1%	0.0%
	船組	0.0%	0.0%	1.3%
	港出日	0.0%	4.2%	1.3%
	漁業	0.0%	2.1%	5.1%
	大山	1.9%	0.0%	0.0%
	雑用	0.0%	0.0%	0.0%
	日雇	0.0%	0.0%	2.6%
	工師	3.7%	2.1%	0.0%
	理髪師	0.0%	0.0%	2.6%
	管業	1.9%	0.0%	5.1%
	運賃	0.0%	2.1%	0.0%
	手廻	0.0%	2.1%	1.3%
	湯銭	0.0%	2.1%	0.0%
	無職	1.9%	2.1%	0.0%
	力ジ	5.6%	12.8%	5.1%
		1.9%	0.0%	0.0%

## 興 津 の 環 境

第15表 便 所

				郷	浦	小 室
専 用				100.00%	98.04%	67.82%
共 用				0	1.96	32.18
数	男	女	別	55.36	29.79	19.77
	男	女	共 用	44.64	70.21	80.23
はきもの	上土両	ばき足方		42.85	52.94	50.00
				39.29	43.14	46.59
				17.86	3.92	3.41
戸	有無		100.00	100.00	92.94	
			0	0	7.06	
手洗い	洗濯	水		68.42	44.68	40.23
				31.58	55.32	51.72
				0	0	8.05

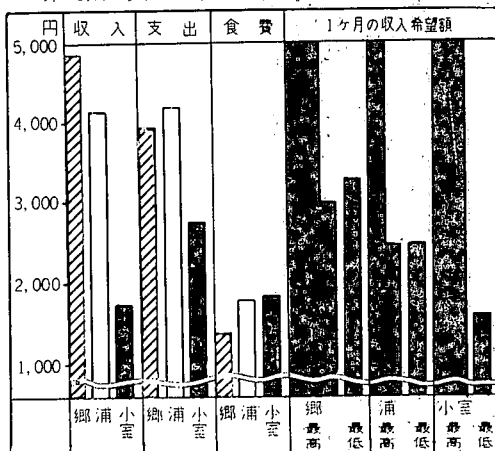
第16表 水

井戸	専共	用	用	98.21%	68.75%	49.02%
				1.79	31.25	50.98
				93.33	66.67	63.64
水道	専共	用	用	0	88.89	80.71
				0	11.11	19.29

第17表 風呂

種類	自も銭	家ら	専い	用湯湯	87.50%	18.37%	44.32%
					12.50	4.08	55.68
					0	77.55	0
回数	入浴回数	最低回数	1日に1度	1日に1度	1.1	1.6	2.8
					1	1	1

第18図 興 津 家 計 状 況



1カ月1人当りの平均額，単位は円。

左に同じ，食べていくだけの金額で衣類，娯楽，旅行，教養費などを考えていない点に注意する必要がある。

第18表 住 居

	郷	浦	小 室
持家	96.43%	89.80%	94.32%
借家	3.57	10.20	5.68
1人当り畳数	3.8枚	2.9枚	2.0枚

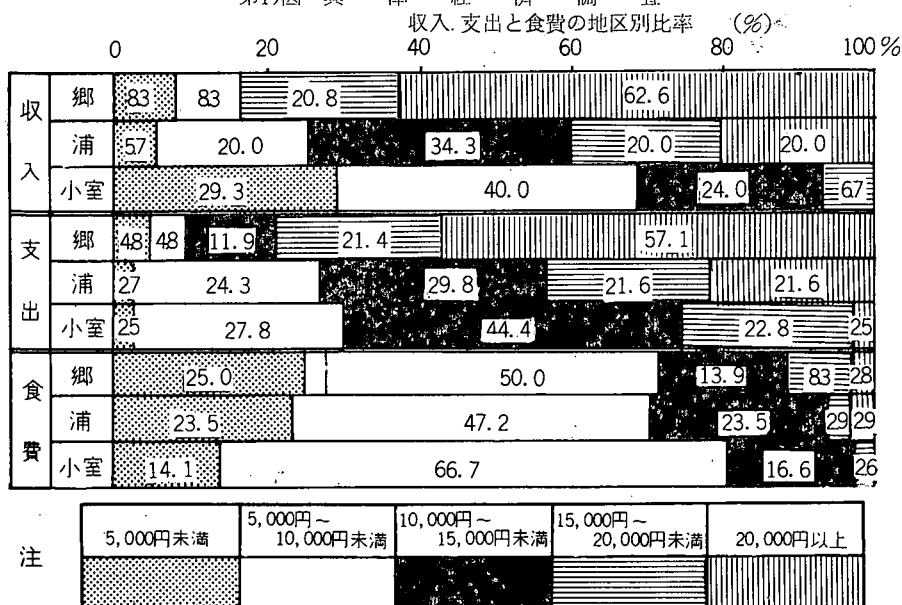
第19表 燃 料

電 気	19.30%	22.00%	6.74%
プロパンガス	52.63	54.00	33.71
石 油	35.09	26.00	37.08
炭	54.39	32.00	50.56
薪	77.19	82.00	91.01
炭，薪のみ	19.30	18.00	33.71

第20表 文 化

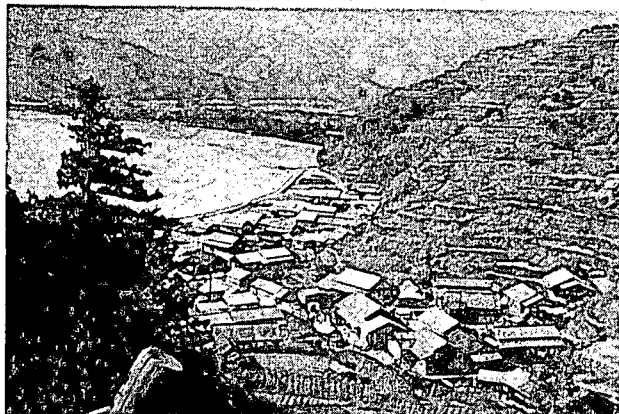
新 聞	73.21%	24.49%	5.56%
雑 誌	55.36	18.37	0
ラ ジ オ	71.43	61.22	58.89
テ レ ビ	48.21	28.57	2.22

第19図 興津経済調査

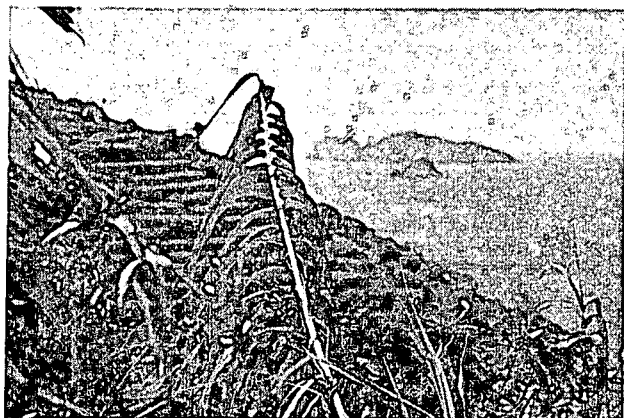


□ 内数字は%をあらわす

第20図 興津小室地区の密集した民家と段々畑



第21図 宿毛市沖の島町の段々畑



第22図 小室地区民家の便所の戸の例



戸：穴と隙間がある。屋根と戸の間はあいていて役目をしていない。防蠅、防臭ができていない。蛆は便所のそとに這い出ている。  
屋根：ところどころ雨がもる。

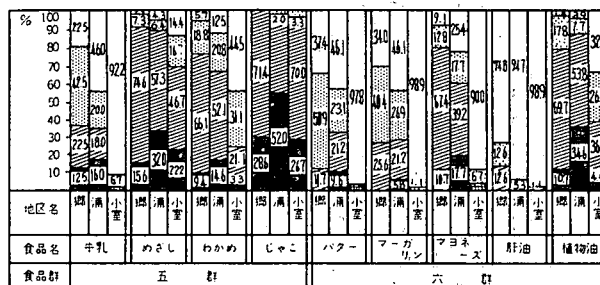
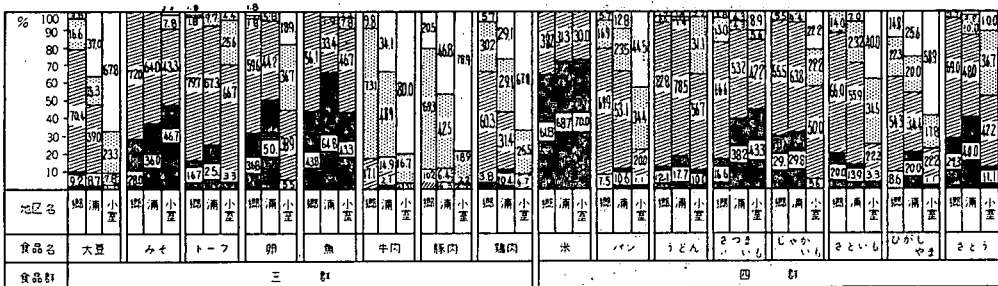
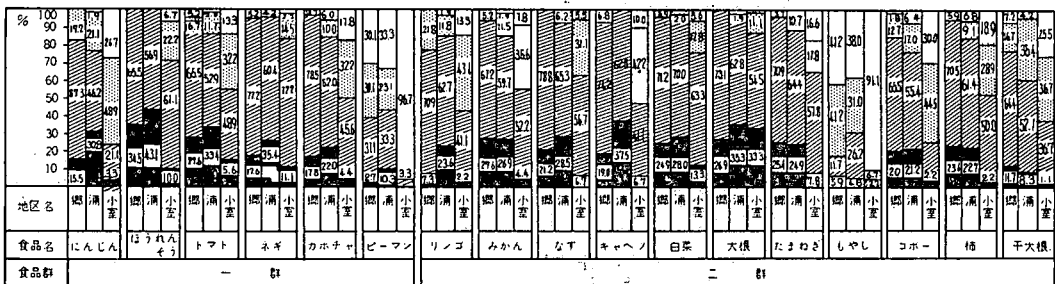
第23図 小室地区民家の台所の例



野天で炊事をしている。谷川には水がない。簡易水道水も出ないので用水、炊事用水、飲料水を水のある隣家の井戸から貰っている。

第 24 図

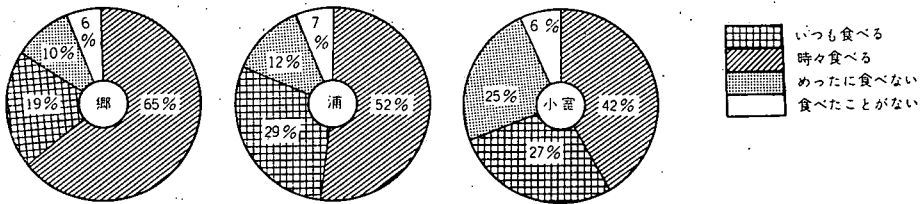
いつもたべる 時々食へる めったに食へない 食へたことがない



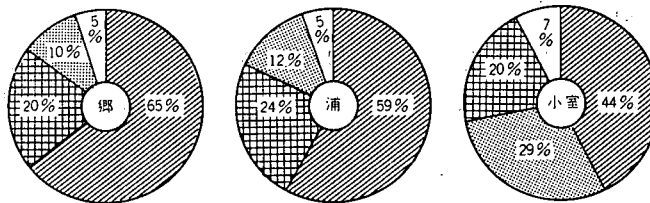


摂取食品の群別はつぎのようになっている。

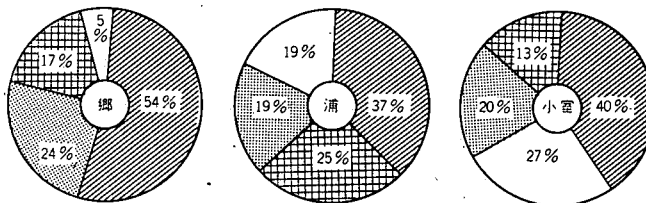
第25図 1 群 (にんじん、ほうれんそう、トマト、ネギ、カボチャ、ピーマン)



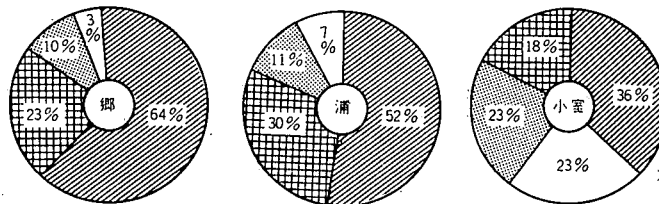
第26図 2 群 (リンゴ、みかん、なす、キャベツ、白菜、大根、たまねぎ、もやし、ゴボウ、柿、干大根)



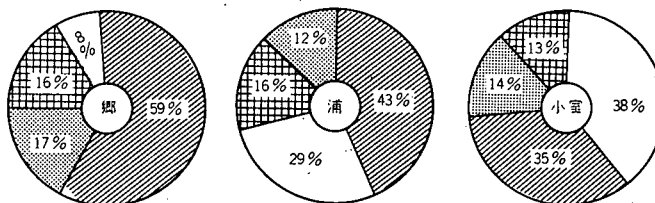
第27図 3 群 (大豆、みそ、トーフ、卵、魚、牛肉、豚肉、鶏肉)



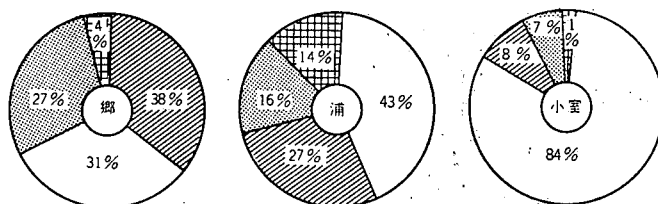
第28図 4 群 (米、パン、うどん、さつまいも、さとう、じゃがいも、さといも、ひがしやま)



第29図 5 群 (牛乳、めざし、わかめ、じゃこ)



第30図 6 群 (バター、マーガリン、マヨネーズ、肝油、植物油)



## III 子 ども た ち の 生 活

## 1. 家庭における教育環境のあらまし

郷地区は農業、浦と小室地区は漁業が多い。3地区がそれぞれ言葉も習慣もちがっている。3地区は徒歩で5分～8分のところに位置していながら「いきき」は少く、とくに郷と浦地区民は小室地区へ出向かない。浦と小室地区からは日雇人として郷地区へ出かけるようで、とくに浦地区民は促成園芸の手伝いとして多数郷地区で働いているとのことである。

中年以上になった小室地区民のなかに、まだ一度も窪川へも高知へも出かけたことがないといっている人びと、ここ2、3年前に始めて「おすし」を知ったと語った50才前後の主婦たちもいる。牛乳をのんだことがなく、バター、マーガリン、マヨネーズ、ハム、ソーセージ、ジュースなど名さえ知らずに過ごしている。店頭にはミカン水やラムネがならべてある。

小室地区の人からは「郷の人たちは働いても金の使い方を知らない」と、郷地区の人からは「小室の人は働かない」という批評を聞く。また小室地区では郷の人は仕事をするとし知らんと言いつ、郷地区では小室の人は働くことを知らんと言っている。

興津八幡宮じんまいの神祭は、興津3地区共同の祭事であるが小室地区民は貧しいので「神米」じんまいを小室地区民から徴収しないという理由で祭事に一切参加させてもらえない。この八幡宮の祭事は現在も、馬や人の身を浄める「塩ごもり」を2日間、ついでお宮に1夜ごもり、2夜ごもりを済ませてからとりおこなわれている。儀式は古式どおりにおこなって、大倉のような世襲制の役目もある。

近くに出稼ぎにいらっている人びとは神祭には帰ってくる。正月には出稼ぎにいらっている者の多くが帰ってくる。

小室地区民が八幡宮の祭事に参加させてもらえないのは、貧しいだけでなく清めても清められないだけに、けがれているという潜在意識からではなからうか。

祭事に「参加させてもらえない氏子」うぢことして遇されている。それでも小室の人びとも神祭には帰ってくるし、親せきや友人も寄り合っている。

3地区の公共施設、農業や漁業協組合員数などはつぎの第21表のとおりである。

第 21 表

・ : ないことをあらわす

昭和39年調査

					郷 地 区	浦 地 区	小 室 地 区
窪 川 町 役 場	文 学 所	あ る					
保 育 園	中 学 校	あ る					
郵 便 局	駐 在 所	・			あ る		
巡 査 派 出 駐 在 所	道 道	・			あ る		
簡 易 水		・			あ る		あ る

				郷 地 区	浦 地 区	小 室 地 区
農 業 協 同 組 合	{	所 在 地		あ る	.	.
		組 合 員 253 名		199 名	43 名	11 名
漁		港	.	あ る	あ る	.
漁 業 協 同 組 合	{	所 在 地	.	あ る	.	.
		組 合 員 282 名	.	197 名	85 名	.
製 氷 会	{	社	.	あ る	.	.
		場	.	あ る	.	.
魚 灯		台	.	あ る	.	.
漁 業 組 合 参 事 談	{	ト	1	10 隻	10 隻	.
		ン	1.5	3 隻	0 隻	.
		ン	2.0	10 隻	10 隻	.
		数	2.5	4 隻	0 隻	.
			3.0	3 隻	1 隻	.
			3.5	1 隻	0 隻	.
			4.0	1 隻	0 隻	.
小 室 区 長 談	{	国からモデル船として貸与	.	.	3 トン	1 隻
		されている漁船	.	.	2.5 トン	1 隻
		更生貸付金、漁業組合貸付	.	.	2 トン	5 隻
		金により入手した漁船	.	.	1 トン	12 隻
遠 洋 漁 業 (出かせぎ)			.	10 名 (青年)	3 名 (青年)	.
厚生事業費による共同作業所			.	.	昭和39年5月中旬竣工	.
大 敷 組 事 務 所			.	あ る	.	.
公 民 館			あ る	.	.	.
青 年 会 館	{	機能を發揮	.	あ る	.	.
消 防 会 館			.	あ る	あ る	.
農 業 会 館			あ る	.	.	.
(劇場として使っている)		していない	.	.	.	.
神 社			八幡宮のほかにある	あ る	あ る	.
仏 教		寺	あ る	あ る	あ る	.
{	{	地 区 民 の 宗 旨	真 言 宗	真 言 宗	真 言 宗	浄土真宗
		仏 事 の 僧 侶	郷在住 (真言宗)	郷在住 (真言宗)	郷在住 (真言宗)	窪川在住 (東本願寺で得度)
そ の 他 の 宗 教			金光教、天理教、成長の家、創価学会など	金光教、天理教、成長の家、創価学会など	.	.
銭 湯			.	2 軒	.	.
旅 館			.	1 軒	.	.
ス ー パ ー マ ー ケ ッ ト			.	39年6月下旬竣工予定	.	.
結 婚 式	{	支 度 金	15万円	15万円	2万5千円	.
		宴 会 費	5万円	5万円	2万5千円	.
		隣人からの祝いの金額	200円	200円	100円	.
葬 式	{	挙 式 自 宅	全戸自宅	全戸自宅	全戸自宅	.
		神 式	15戸	5戸	.	.
		仏 式	15戸を除いたほか	5戸を除いたほか	全戸仏式	.
式	{	入 費	3万円	3万円	2万円	.
		近所からの見舞金額	100円	100円	100円	.
		年 忌 祭 葬	5,000円	1万円	1万円	.
土			全戸土葬	全戸土葬	全戸土葬	.

## 注

1. 農業協同組合専務談：郷のキュウリの促成園芸は年間約1億3千万円の売上げがあるが限界にきているので、ほかの園芸物例えばミカン、ピーマンなどに切り換えねばならないと話しているが、毎日の仕事に逐われ、預金が減りながらもまだどうにか今のところくらしでいっていることや資金そのほかの関係でそのままで過している。ふみきりがつかない。昨年は「ストック」をつくってみたが収益が上らなかった。養雞は、谷間の産業になっている。蔬菜園芸ものはなんでも適した土地であるが、トラックで興津峠を越して搬出せねばならないので「県道が不通になることがたびたびである。いたむ。運賃が高くなる。」などの点で非常に不利である。トンネルが開通できればそれにこしたことはないが、当局は「興津の住民が少いから実現できない」というので、せめて海岸にそって須崎へ通る道路を開通してほしい。大きな交通の悩みがある。大正9年頃フレームとして始まった。戦時中やむを得ず数年間中止したことがあるが、大正11～12年頃から本格的につづけてきている。ビニールハウスになってから広い面積が必要であり、また連作という問題もある。

2. 漁業協同組合参事談：「郷には漁業が10名ほどある」とのことであるが第21表でわかるように組合員でない。

3. 大敷は1統あるが高知市在住の個人の所有である。浦と小室地区の漁民が月給制で働いている。例：昭和39年1月に現地できところによると、昭和39年は人数37名で小室の漁民に13名割り当てられたが、8名行っている。期間は1月から6月まで敷く予定で月給は15,800円、ブリ1,000本につき2本の割の「ぬれしろ」がある。1日2回で朝夕漁場にでかける。

4. 浦地区長談：結婚式は経費節約の意味で数年前から公民館結婚を主張いたしておりますがまだに実現いたしません。婦人会長さんと2人で新郎、新婦のところへ行って、「公民館結婚をすすめる」理由を話しましたところ、双方とも公民館結婚の主意には賛成しますが、最初の皮切りを辞退しますのでまだに実現しません。公民館結婚を実現するうえにより方法がありますればご指導をおたのみします。

郷分は年忌祭を午前中に済ますので経費は浦分の半額、浦分は年忌祭をお祝いの酒場のように夜間いたしますので経費が郷分の倍額、郷分のように実施すべく話し合って1,2年は実施しましたが、この頃はまたもとのとおりになりました。

5. 小室地区長談：漁業だけを頼っては、生活はなかなか困難であり、何かほかに副産業をおこしたい。土地と資金がほしい。土地は埋立てする場所はあるが県や国が工事をしてくれない。八幡宮の祭事が県の文化財になって県から補助金にくるようになれば、小室の者も参加させてもらいたい。

6. 小室地区では年忌祭は50年でおこなうものが多くて経費は1万円まで。香典は100円均一。

小室地区の子どもたちのなかには、夏の暑さが厳しくて屋内にいたたまれなく夜間港にはいっている漁船で過し夜露に曝らされて健康を害することがある。郷地区の家にくらべて小さく、のきも低く狭いところに密集している。3地区のなかで通風が一番悪い。子どもたちが健全に育つように「多人数の家族が少い間数の家で生活している実状を顧慮して」住宅に関する指導と援助が必要である。

小室地区の漁民の子どもたちは、出漁の報らせのサイレンが鳴ると反射的に飛び起きる。未明から「さくら貝拾い、子もり、手伝い、まき拾い、魚類を市場に運ぶ、病院へ治療をうけにいく」など一人ひとりの生活が始まる。

急傾斜の段々畑をわづかに耕作地として、利用している沖の島と小室地区は、つぎのような点が共通している。

- 1) 学校教育のなかに格差がある。
- 2) 地区民があきらめている。
- 3) 家計が貧しくて、副業がない。
- 4) 僻地であって文化に接する機会が少い。

などである。

- 1) 遠く県内外、国外へ出稼ぎにいく。その収入のなかから留守家族へ送金している。
- 2) 島外移住者が多い。

- 3) 阪神地区、愛媛県などとのいききがある。
- 4) カマボコ、揚げ物、野菜など愛媛県のもものが運ばれてくる。
- 5) 沖の島町は、藩政時代に2つの藩にわかれていた。各地区民の間に競争意識のようなものが潜在していて、島外雄飛、相互間のことを知ろうとする努力がなされている。
- 6) 海岸は磯で海藻類がとれる。保存して食膳に供している。
- 7) 「ささげ」「あかまめ(あかささげ)」「エンドウ」「こやまめ(そらまめ)」「ぢまめ(南京豆)」などを常食としている。
- 8) 家計が苦しい家で3俵、豊かな家で5俵の餅を搗いて水餅として保存しておき、来客のときの茶菓子や日常仕事に出かけるときに弁当として食している。

などが沖の島町ではみられるが、小室地区ではこの7つの事項はほとんどみられない。

小室地区の海岸は、砂浜が多くて海草類が少く、畑には「さつま芋」と「麦」をつくっている。

昭和38年にわたくしたちが調査を始めてから、沖の島町の南京豆を「種豆」として、小室地区民、郷と浦地区長に配布した。ピーマンも小室地区民にすすめて植えてもらい食膳に供することに成功した。昭和39年1月15日頃の厳寒の季節にも畑で実り地区民は油でいためて食べていた。昭和39年4月6日に小室地区へ出むいたとき地区入口の浜辺の畑をはじめ豌豆の花が咲き揃って実っていた。本年も、温暖であり、年中とれるのでピーマンを昨年のように、植えて、油でいためて食べるようにわたくしたちは、アドバイスしている。

小室地区の子どもたちは、1人として健康にみえない。日焼けしている顔には、光沢がなくあおさと黒さが混っていて眼瞼の下には黒い輪がみられる。毛髪は光沢がなく乾いている。暗い表情で動きがない。

浦と小室地区の分岐点「一本松」(第31図参照)に立って、学校帰り子どもたちを眺めていると、顔色とみなりでどの方向に帰っていく子どもであるのか見当がつく。

小室地区の子どもたちが郷地区に出かけると毛虫のように嫌われるとのことである。小室地区の子どもは、地区外へ出かけるとき1人でなく2人以上で出むいているようにみうけられる。

4月に、小室地区の子どもたちはもうシャツ1枚で裸足で遊んでいる。遊ぶ道具も場所もないので道端に立っていたり、数人でブラブラと歩いている姿や刃物を持っている子どもたちが目につく。小学3年生の女兒が「あれらあ(わたくしたち)のことをへごに(わるく)いいよったらナイフでつくぞ」と言っている声もあった。ナイフを何故もっているのか、転んだとき危いから持たないようにしてはどうかと男児に話しかけてみた。すると「郷分の子らあがナイフをつきつけてくるきによやあ。そんちゃあきにこっちも、もっちゃらにやあ、いかんけん、そんでよやあ。」と答えた。童謡、子守歌、民謡、歌謡曲すら歌わない。

「やで(うで)」「けれんけつ(犬)」「まめぐち(間食)」「べっかく(特別に)」「あが(そういても)」「へそくりよる(泣いている)」「ほえな(黙っていなさい)」「かなてつ(魚類などを焼く網)」などのわからない日常語が残っている。

## 2. 学校内における教育環境のあらまし

3地区の中間に位置する郷地区内に窪川町立興津保育園という名称の保育所がある。(第31図参照)園長は窪川町長である。町内には窪川町長が園長である町立の2つ(窪川旧町、東又)の保育所と私立の保育所が6つで合計9つある。

窪川町立興津保育園は、保母3名、調理人1名、使丁1名で運営している。昭和39年1月15日現在の在籍人員は60名である。1カ月の給食代は18.12円×60名×保育日数で約27,000円である。1日の給食代は幼児が脱脂粉乳と副食で18円12銭、乳児満3才未満が43円70銭で、主食は幼児(3才以上)の持参ときめられている。

月謝は家庭の所得額に応じて収められ、郷と浦地区の園児は1ヵ月300円～1,300円で平均して400円～500円の額となる。小室地区の園児は、15名のなかで3名が300円収めていて、あとの12名は生活保護家庭であるため収めていない。

保母は行政職の待遇で公務員なみの給料で調理人と使丁は単純労務となっている。なお私立の保育所は個々の園で給料の差がある。

第22表 窪川町立興津保育園の郷、浦、小室の3地区別園児数

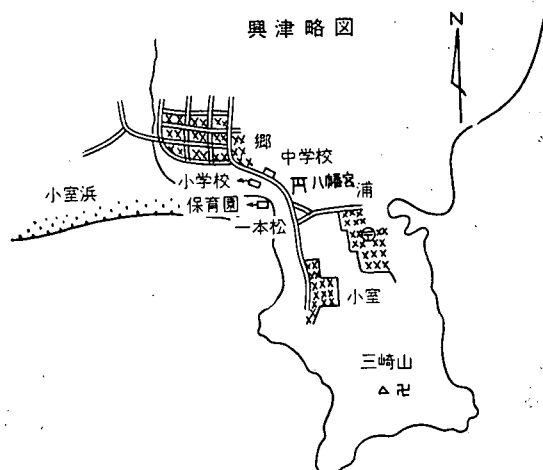
昭和39年1月15日現在

年 令 (才)	2			3			4			5			6			総 計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
郷 地 区	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3	3	6	5	3	8	17
浦 地 区	0	0	0	0	1	1	3	5	8	5	4	9	6	4	10	28
小 室 地 区	0	0	0	0	0	0	4	0	4	3	7	10	1	0	1	15

郷と浦地区園児は平均400～500円の月謝を収めている。

小室地区園児は15名のなかで3名が月謝300円を収めている。生活保護家庭の12名は収めていない。

第 31 図



小学校にはクラブ活動として、「筆の友」と珠算がある。費用の点でこのクラブへはいり活動したくてもできない子どもたちがいる。

中学校のクラブ活動は野球だけで、それは服装や用具の整う生徒たちでなされている。

英語の時間に若い教師がわからないことを言うので「いつも組みゆう」と生徒はいう。これはわからないことを言うので、わかるように教えるようにと言って「とっくみあい」をするとのことである。

第32図 興津小中学校クラブ活動

小学校クラブ活動：部員は自由にクラブを選択し所属する。毎週木曜日7時限(15.10→15.55)をあてている。

中学校クラブ活動

昭和37年度	昭和38年度	昭和39年度	昭和37年度	昭和38年度	昭和39年度
珠 算 筆 の 友	珠 算 部 音 楽 部 美 術 部 園 芸 部 理 科 部 書 道 部	珠 算 部 音 楽 部 園 芸 部 書 道 部	野 球	体 育 { 野 球 バレーボール ソフトボール 卓 球 }	体 育 { 野 球 バレーボール ソフトボール 卓 球 }
				文 化 { 美 術 部 }	文 化 { 美 術 部 技 術 部 科 学 部 }

英語の授業で教師は黒板に英語を書き、読み方や意味について学習している。2～3名の生徒が席をたって窓の方へ行っても、後向いて話をしても教師からの注意はない。

国語の授業時間に教壇では教師が本を読んでいるが、生徒の半数は立って教室のなかを歩き、残りは席についているが、気ままに話しあっている。この授業は授業中なのか休み時間なのか区別ができない。最後列には、子守りをしながら席についている生徒もいる。

職員室のなかを生徒がかけずりまわり、教師の机上の物品に触れ、抽き出しにも手をかけている。戸を開けると閉めることをしない。どなりながら室外へ出たり室内にはいたりして、1カ所にジットしていない。教師の授業の拙劣である点を指摘して、わかるように教えろと談判している生徒もいる。

上述のように、むき出しにした子どもたちの願いと、満たされることのない欲望を腕力に訴えて発散させている。

「教師に対して大声を出す。白紙の答案を提出している。授業時間中に庭で遊んでいる。隣接する八幡宮の庭との境界を乗り越えてボールを拾っている。」などの生徒たちが目に映る。学校から帰宅して私塾に友人と誘い合って勉強に出かけていく郷や浦地区の子どもたちもいる。

昭和36年から昭和37年にかけての同盟休校を通して、3地区の子どもたちは、それぞれちがった立場から事態を受けとめていることと推察する。権利の後盾である義務などの概念について、体験を着実に積み判断していく指導の理念、技術などを大人たちが考えることが先決である。

便所には金網もなく、通風が強すぎる。便所用の下駄はあるがぬれていたりで快適でない。木製の水槽に蛇口をつけて「手洗い」ができるようにはなっているがその水がない。

二階の教室の窓から顔を出したり、窓に腰をかけている。窓ガラスの約1/3は破損し、板壁はガタガタしていて、ところどころ剥ぎ取られている。壁は落ちていくところが多い。

運動場は狭く隣り合っている八幡宮境内との間には、有刺鉄線をはってある。硝子の破片が無数に落ちている。その破片の尖端の多くは円くなっているので長いこと、そのかけらが拾われなかったことを示している。足洗い場の数も少なくて整備されていない。

郷と浦地区には、「子ども会」がない。小室地区にはあって、中学校の教師1名が参加しているが小学校の教師は参加していない。小室地区の子どもたちは子ども会のあることを誇りとしているように見受けられる。「小学校の先生も来るようにせにゃあいなあや。来るようにいうていこうと考えちよるがじゃ。」とも話していた。

子どもたちの周囲には、伝染病や外傷などの危険が潜在している。1日も早く科学的に合理的な学校安全の方向を見出し、安全な学校環境をつくり出さねばならない。

わたくしたちが路上で、また学校内で挨拶をしても返事をしなかったが調査開始約8カ月経過した10月頃から子どもたちが玄関へ駆け出してきて挨拶をするようになった。

「正しい、しつけ教育には先輩の愛情と模範」とが必要なのである。

教育の指導者は教師に責任と愛情を持てるような生活環境を与える必要がありそうである。

つぎに昭和38年から昭和39年春頃までにおける学校生活の側面について報道機関が報道したなかで、建設的で、愛情のある教育行政の必要性を示す事例を列举しておく。

1. 昭和38年2月22日：窪川町興津支所学力テスト答案で封筒（新聞見出し、以下同様）。
2. 昭和38年6月27日：県下でも一斉に学力テスト 百パーセント達成できず白紙提出の生徒も 2校で拒否される。
3. 昭和38年6月28日：学力テスト2日目 興津中はついに中止。
4. 昭和38年8月7日：興津中学の正常化問題 県教委が異例措置2学期から教員増員。
5. 昭和38年9月3日：新たに23人も櫛原の赤痢ふえる。

6. 昭和38年10月25日：保育園児を中心に 13人が赤痢保菌 宿毛市。
7. 昭和39年3月13日：半分しかない問題 高知の高校入試 また印刷ミスわかる。
8. 昭和39年3月15日：修学旅行でケンカ 高知の中学生、大阪で刺す。
9. 昭和39年3月16日：校長おどし先生なぐる 興津中の3生徒 鉄線の撤去が動機。
10. 昭和39年3月24日：修学旅行生が乱闘 船上で 中学生2人がケガ。
11. 昭和39年3月24日：6人に懲役，1人に罰金 興津中小学校盟休事件に求刑。
12. 昭和39年4月11日：富士WHO事務局長語る これほどの集団は始めて 興津甲状腺肥大患者。

などである。

昭和38年の例えば初夏の約1カ月間の興津中学校における学校生活の側面においては、つぎのような事例があったようである。

1. 生徒同志の傷害事件。
2. 野球練習中のケガ。
3. 学力テストの問題。
4. 雨どいをつたっていた生徒が2階の高さから落ちる。
5. 自転車の相乗りが土手から落ちて人事不省となって窪川の病院に運ぶ。
6. 生徒に頭をたたかれて女先生が脳しんとうをおこして入院。

などである。

安全な教育環境を確立できるように努力することが必要である。僻地においては「教師は家族と一緒に住める住宅と医療施設，子どもたちは安全な学校環境，救急処置のできる保健室，学校給食の実施」などがさしあたって必要である。その措置として学校保健法に示されてある学校薬剤師と養護教諭の配置，保健費を各学校の予算項目のなかに確立するなどの事項から着実に積み重ねていかなければならない。

興津に赴任したことを左遷か島流しのように教師自身が考える要因が，ここには潜在しているのではないか，また仕方がないから2.3年辛棒して何事もなく過して興津峠を越してそのうちに転任させてもらおうと考える要素もありはしないか，と考えさせられる。

昭和39年3月9日の高知県下公立高等学校の入試で，答案用紙の裏面に翌日分の問題が印刷されたり，半面白紙の用紙などミスプリントがあったことが報道機関によって報道されたが，これなどは「人の和」の欠乏を暗示しているようにつながり，心理的不安定を訴えているかの如くに見える。

興津の矛盾の背景は最初に考えていたよりも大変大きいように思われてきた。

わたくしたちが調査に出向いた日は連休前の土曜であった。授業は3時間で終わり，小学校では教員1名が残りあとの全員は11時のバスで窪川の方へ向った。中学校は教員2名が残り，あと2.3人は逃げるように立ち去った。

子どもたちに「早いね」と声をかけると，土曜日はいつも3時間で終るとのことであった。「教師」はすでにサラリーマン化してきている。

教育に対する信頼を失うという点で，また教育行政担当者の良心ひいては人材とその配置が適正であるかどうかなど教育施策推進上の重大な問題である。

僻地教育担当者が十分に教育能力と教育効果を積み重ねていくことができるように，勇気と希望をもって職務に専念できる条件，教育担当者としての必要な良心と責任を呼び醒ますように，高知県の教育行政は改善されねばならないであろう。

興津小，中学校教員の免許状と担当の現状は，つぎのようになっている。

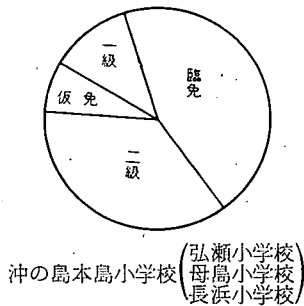


第23表 沖の島町小学校の免許状別教員の延人数

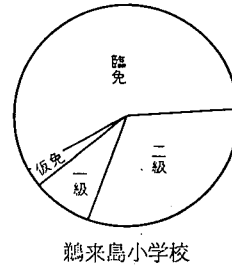
昭和36年度調査

	沖の島本島小学校 (昭和26年～昭和36年度)		鵜来島小学校 (昭和22年～昭和36年)	
	延 人 員	百 分 率 (%)	延 人 員	百 分 率 (%)
1 級	21	11	4	10
2 級	89	45	17	34
仮 免	16	8	1	2
臨 免	70	36	26	54
計	196	100	48	100
僻地教育指定の級別	弘瀬、長浜 4 級地 母島 3 級地		5 級地	

第33図 昭和26年～昭和36年度の小学校免許状況



第34図 昭和22年～昭和36年度の小学校免許状況



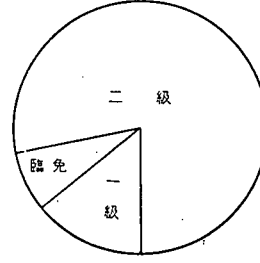
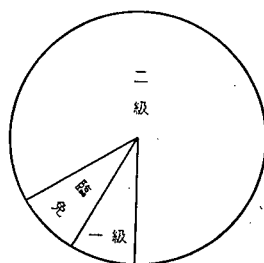
第24表 興津小中学校の免許状別教員数

昭和38年度調査

	興津小学校		興津中学校		野根小学校		野根中学校	
	教員数	百分率(%)	教員数	百分率(%)	教員数	百分率(%)	教員数	百分率(%)
1 級	1	8	3	23	2	14	5	33
2 級	11	84	7	54	11	79	10	67
臨 免	1	8	3	23	1	7	0	0
計	13	100	13	100	14	100	15	100
僻地教育指定の級別	1 級 地				僻地教育指定に該当しない			

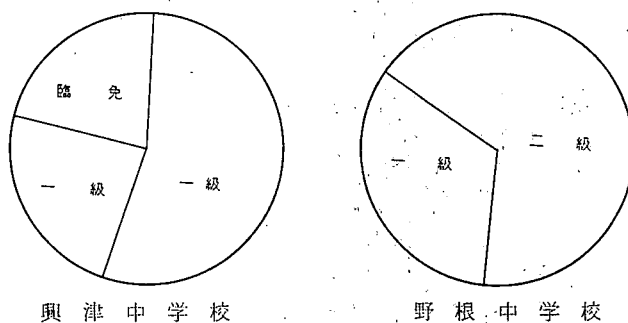
第 35 図

昭和38年度調査

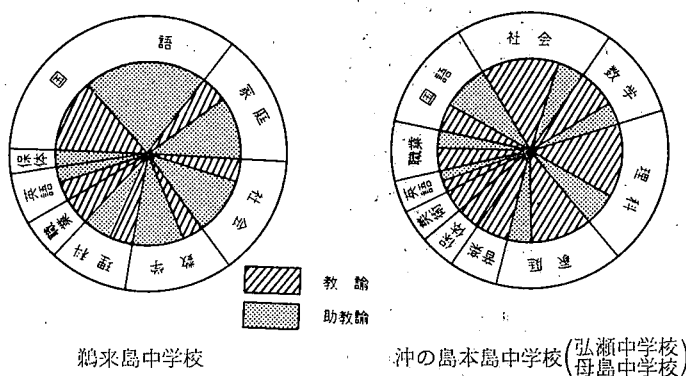


第 36 図

昭和38年度調査



第37図 昭和30年～36年度の沖の島町中学校免許教科の所有状況



第 39 図

僻地教育指定の級別		4 級		3 級		5 級		4 級	
学 校 名		弘 瀬		母 島		鶴 来 島		長 浜	
		免許状	担 当	免許状	担 当	免許状	担 当	免許状	担 当
小 学 校	男	1. 中2英・数	校 長	小1	校 長	小1中2数・職	校 長	小2中2社・保体	校 長
	2	小1中1社	3	小1	5	小2	6	小2	2・3
	3	小仮中2国・職	4	助	4	臨助	2・3	小2中2社	4・5
	4	小助	5	小2	6	—	—	小2	6
	5	小2	6	—	—	—	—	—	—
	6	小1中1保養護1	養 護	—	—	—	—	—	—
	女	1 小2	1	小1	1	小2	1	小2	1
	2	小2幼2	2	小2	2	—	—	—	—
	3	—	—	小2	3	—	—	—	—

中 学 校	男	1	中1社 中2国 小2	校長・図 工	中2理・ 国	校長・国 ・図工	助中1理	理・数
		2	中臨	国	中2理・ 保体	理・保体	中臨社・ 保	社・保
		3	中2理	理・英・社	中2社	社・国・ 数・習	中2社 小2	4 5 (小)
		4	中仮	数・社	中1社	英・社・保 体・道	講中1国	国・体・音
		5	中助	理・数・ 保体	中2数・ 職	職・国・数	一	一
	女	1	中2音・家 小2	家・音・習	中2家	家・音	中臨家・ 国	家・国
調 査		昭 和 3 6 年 9 月 調 査						

注

助……2級免許状 採用.

講……免許状は持っているが、採用になっていないもの.

仮免 } 同じものと思われる.

臨免 }

道……学級会のこと.

鵜来島小中学校は併設されており校長は一人である.

第 40 図

僻地教育指定の級別		1 級				僻 地 教 育 指 定 な し				
学 校 名		興 津 （興津小中学校長談）				野 根 （野根小中学校長談）				
		免 許 状	担 当	免 許 状	担 当	免 許 状	担 当	免 許 状	担 当	
小 学 校	男	1	小2 中2国・社	校 長	小2 中2国・社	校 長	小1 中1国・社	校 長	小1 中1国・社	校 長
		2	小2	5	小2 中2理・保	5	講中2社	3	小2 中高2国・社	教 頭
		3	小2	5	中2社・宗	6	小1 中2国・社	4	小1 中2国・社	4
		4	小2	6	小2	6	小2 中高2社	5	小2 中2美・保体	5
		5	助中1社・ 宗高2社・ 宗	6	小2	福 祉	小2	6	小2 中1社 高2社	特殊学級
		6	小2 中2理・保	福祉教員	—	—	小2 中1社 高2社	特殊学級	小2	6
		7	—	—	—	—	小2 中1美・保体	2	—	—
	女	1	小2	1	小2 高仮家 中2国・家	1	講小2	1	小2	1
		2	小2	2	小2 中2家	2	小2	1	講小2	1
		3	小2	2	小2	3	小2	2	小2	2

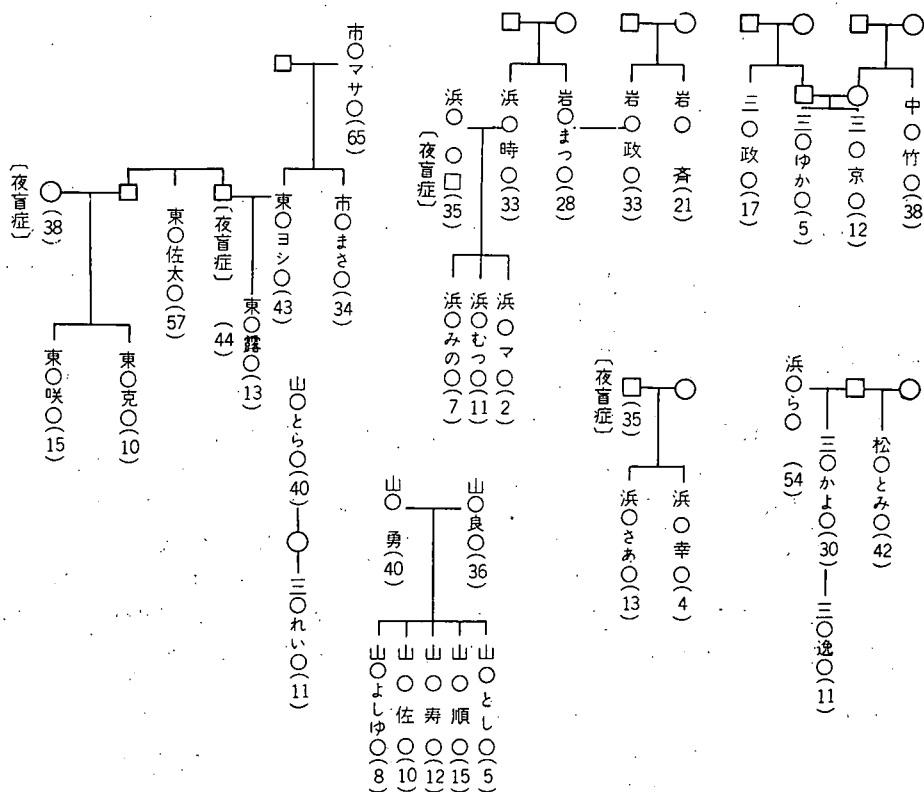
僻地教育指定の級別		1 級				僻地教育指定なし			
学 校 名		興 津 (興津小中学校長談)				野 根 (野根小中学校長談)			
		免 許 状	担 当	免 許 状	担 当	免 許 状	担 当	免 許 状	担 当
女	4	小2	3	小2	3	小2	3	講中2家	2
	5	小1	4	小1	4	小2・中2社・家	4	小2	3
	6	講小2	4	小2・中2図工	5	小2	5	小2	3
	7	小2高飯家・中2国・家	養 護	—	—	小2	6	小2	4
	8	—	—	—	—	—	—	小2	5
	9	—	—	—	—	—	—	小2	6
	10	—	—	—	—	—	—	小2	特殊学級
中 男	1	中2国	校 長	中1社・技	校 長	小1・中2社・保体	校長・国	小1・中2社・保体	校 長
	2	小2・中2社・国	社	小2・中1英・社・高2社	社・英	高2農・中2社・職	社・美	講中1職・高2商	社・技
	3	中2理・数	数・理	中2数・理	数	中2数・理	数・理・技	中1社・中2国・高2社	社・数
	4	中2美	美・数	中1英・高2英	英・数	中1国・高2体・小1	国・体	中2国	国・英
	5	中2社・理	理・保	小1・中1英・高2英	英	高2英・中2英・社	英	中2理・数	数・理
	6	講中2英・高2英・小1	英・体	中2社・理	理	高2社・中1国・中2	数・社・技	中2社	特殊学級
	7	臨社・体	英・国・体	中2美・技家	技・美	中1社・高2社	英・社・数	中2英	英
	8	臨国・習	社・数・習	臨国・習	国・習	高2理・中1理	理・社・美	中2英・高2英	英
	9	臨技・国	技・国	臨社・体	体・社	中2英・講高2商・中1職	英・美・体	小1・高2保体・中1保体・国	体・国
	10	中1英・高2英	英・数	臨技・国	技・国	—	数・技	—	—
	11	中1社・技・高2農	理・社	臨社・保体	社・理	—	—	—	—
校 女	1	中1家・高2家	技・家・国	高2家・中1家	家・保	中2家・保体	国・技・保	中2国	国・数
	2	中2保体	音・保体	講小2・中2国	体・音	高2理・中2理	英・理・保・美	中2家・保体	家・国
	3	注 男9は6月増員				中2家・保	国・技	中2理・高2理	理
	4	男10, 11は9月より増員				中2家・小2	音・体	中1図工・高2美・工芸	美・家
	5					講中2家・保	社・体・美	中2家	音・体
	6					—	—	中臨国・家	国・社
調 査		昭和38年度調査		昭和39年度調査		昭和38年度調査		昭和39年度調査	

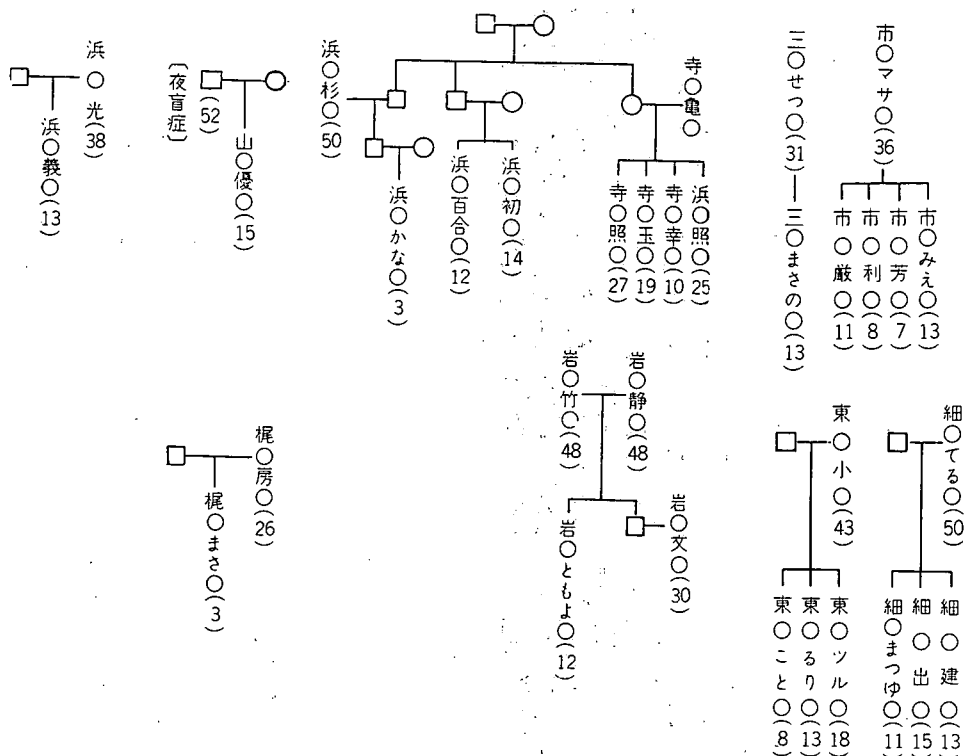
昭和39年4月6日現在小室地区民甲状腺肥大者91名のなかで68名が下記の第41図に示すような状態である。

2世代ないし3世代にわたる血族関係のない23名のなかで、生活保護を受けていない者は3名であとの20名はうけていることから血族関係は重要な要因でないと考えする。

昭和38年2月25日～昭和39年4月6日調査

氏名と年齢記載：甲状腺肥大者





甲状腺肥大を遺伝と考え、夜盲症も昔からここにはあるという前近代的なあきらめを科学に対する信頼に切り換えねばならない。

「なにをしても、キチンとしたつながりをもって、物事を処理することに、欠けているので、ここでブツリ、そこでブツリと切れ切れになって、ナカナカはかどりません。

なにはともあれ、校長先生が、ハッキリと、1日も早く安全な状態を確保することが、なににもまして大切なことだと思いますが、そんな愛情を常にもってほしいと願わずにはいられません。

どんなことにも共通していますが、1ツ1ツのことを、生徒のために、みんなのために、力をつくしてこそ、生徒は学校を愛するでしょうし、友だちを愛し、みんなの心が暖かくかよいあうと思います。きびしくといっても、きまりばかりでしぼるのでは、なにごともおさまるはずがないと思います。こんなことを考える日々です。」これは僻地で子どもたちの生命の尊厳性を確立するように、不慣れな環境のなかで健康を害されながら努力している1教師からの手紙の1節である。

興津中学校の卒業生について進学と就職はどのようになっているかを昭和38年3月と昭和39年3月の卒業生について集計した。(第25, 26表参照) 第26表に示すように小室地区の卒業生からの進学者が昭和39年3月に6名あった点は考慮してみなければならない。

第25表 興津中学校卒業生の進学と就職 昭和38年3月調査

卒業生数		高等学校進学者数				就職者数			
		郷地区	浦地区	小室地区	計	郷地区	浦地区	小室地区	計
男	33	10	5	0	15	5	9	4	18
女	38	4	3	0	7	7	16	8	31
計	71	14	8	0	22	12	25	12	49

第26表 興津中学校 昭和39年3月卒業生の進学、就職状況

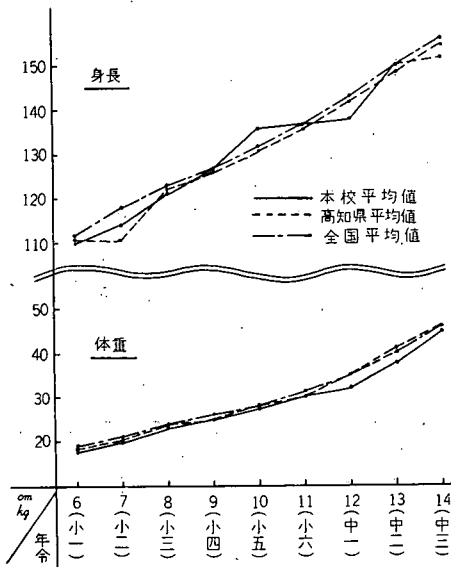
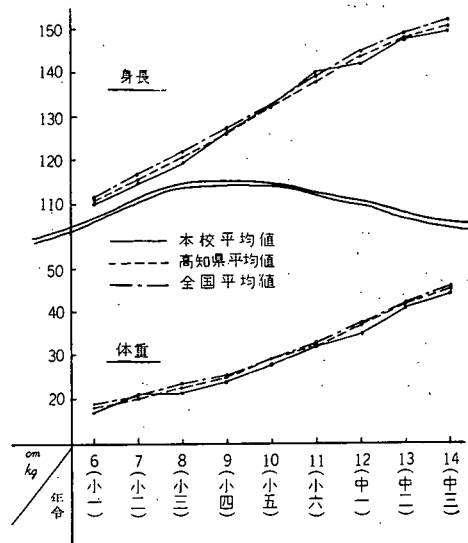
卒業生数	高等学校進学者数				就職者数				その他
	郷	浦	小室	計	郷	浦	小室	計	
男 (45名)	8	3	5	16	11	8	8	27	2
女 (30名)	5	3	1	9	4	10	6	20	1
計 (75名)	13	6	6	25	15	18	14	47	3

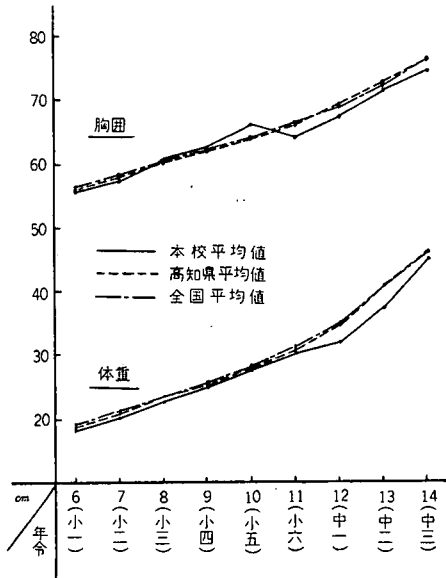
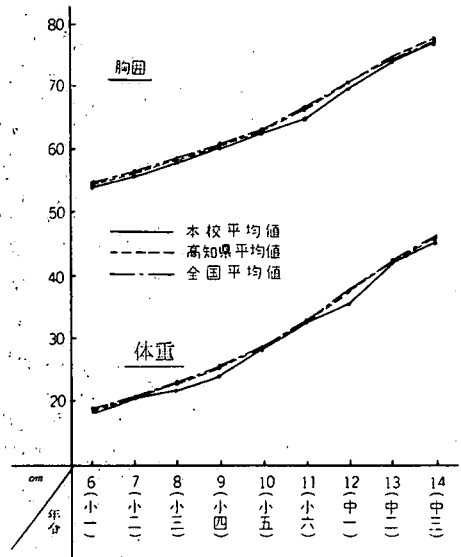
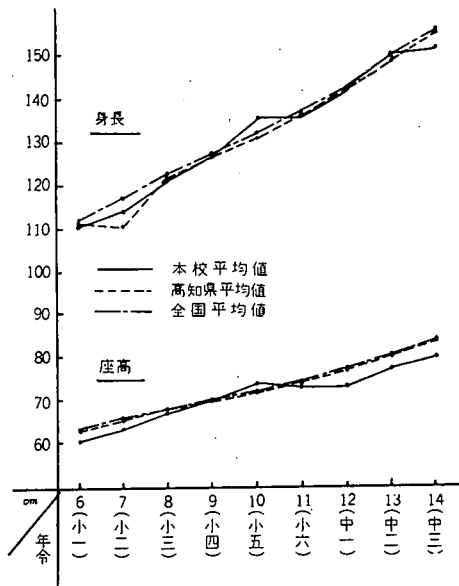
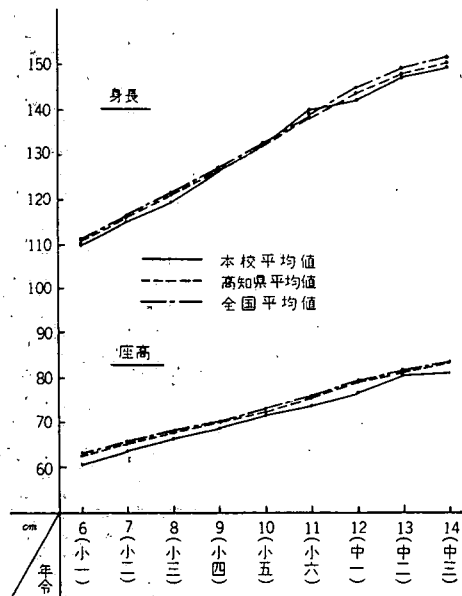
  

就職 先 き	郷	男	機械工 (4人) 大阪, 機械工具販売員 (3人) 大阪, 機械工 (2人) 愛知, 機械工 (1人) 兵庫, 左官見習 (1人) 兵庫
		女	紡績女工 (2人) 大阪, 紡績女工 (1人) 愛知, 紡績女工 (1人) 兵庫
	浦	男	機械工 (3人) 大阪, メリヤス工 (5人) 大阪
		女	紡績女工 (8人) 大阪, 看護婦見習 (1人) 大阪, 紡績女工 (1人) 愛知
	小室	男	機械工 (5人) 愛知, 機械工 (2人) 大阪, ミシン工 (1人) 大阪
		女	紡績女工 (2人) 大阪, 紡績女工 (4人) 愛知

## 3. 健康診断の成績

児童生徒の体位と疾病は、興津小中学校の昭和37年度の定期健康診断の集計である。

第42図 昭和37年度身長および体重 (男子)  
興津小・中学校第43図 昭和37年度身長および体重 (女子)  
興津小・中学校

第44図 昭和37年度体重および胸囲（男子）  
興津小・中学校第45図 昭和37年度体重および胸囲（女子）  
興津小・中学校第46図 昭和37年度身長および座高（男子）  
興津小・中学校第47図 昭和37年度身長および座高（女子）  
興津小・中学校

身長、体重、胸囲、坐高の全国ならびに県平均にくらべて劣っている。12才～14才の男子、8才、9才と12才の女子の体重が全国ならびに県平均より2～3 kg 少く、胸囲と座高も男女ともにとくに劣っている。



第27表 昭和37年度定期健康診断における被患率 (男子)

検査項目	学 校 種 別	小 学 校			中 学 校		
		全 国 平 均	高知県平均	本 校 平 均	全 国 平 均	高知県平均	本 校 平 均
栄養要注意		0.66	0.6	3.26	0.48	0.5	3.85
脊柱異常		0.63	0.9	0	0.49	0.2	0
胸部異常		1.09	1.3	1.09	0.52	0.5	0
目 { 近色トその	神異一 ラホム の他の眼疾	10.82	5.9	7.07	18.02	8.6	13.46
		2.83	2.1	0.54	3.86	2.9	1.92
		2.54	1.8	3.26	2.53	1.2	1.92
		1.08	0.4	0	0.82	0.2	0.96
耳 { 中その	耳の耳 の他の耳疾	0.57	0.4	0.54	0.55	0.3	1.92
		1.12	0.4	0	0.80	0.2	0
鼻及び咽頭 { ア扁桃腺肥大 その他の鼻咽喉疾患	イド 肥大 疾患	0.79	0.05	0	0.13	0.01	0
		10.07	8.7	1.09	6.73	6.4	0
		5.63	3.1	2.72	3.33	1.1	0
伝染性皮肤病疾患		3.24	2.2	2.17	2.05	1.6	0.96
心臓疾患		0.37	0.3	0	0.36	0.2	0
歯 { う処置完了者 歯未処置歯のある者		5.53	7.4	4.89	13.11	14.4	1.67
		79.20	71.8	30.43	64.96	66.0	55.83

第28表 昭和37年度定期健康診断における被患率 (女子)

検査項目	学 校 種 別	小 学 校			中 学 校		
		全 国 平 均	高知県平均	本 校 平 均	全 国 平 均	高知県平均	本 校 平 均
栄養要注意		0.62	0.5	7.17	0.39	0.2	7.78
脊柱異常		0.51	0.7	0.60	0.34	0.1	0
胸部異常		0.72	0.7	0	0.30	0.2	0
目 { 近色トその	神異一 ラホム の他の眼疾	13.42	7.6	13.17	22.12	10.3	30.00
		0.20	0.4	0	0.35	0.4	0
		3.08	1.9	4.19	2.77	1.3	1.11
		1.10	0.3	1.80	0.81	0.1	0
耳 { 中その	耳の耳 の他の耳疾	0.36	0.2	1.20	0.40	0.2	0
		0.94	0.3	0	0.60	0.2	1.11
鼻及び咽頭 { ア扁桃腺肥大 その他の鼻咽喉疾患	イド 肥大 疾患	0.70	0.07	0.60	0.12	0.03	0
		9.91	9.1	0.60	6.71	7.7	0
		4.16	2.4	1.20	2.65	0.8	1.11
伝染性皮肤病疾患		1.97	1.3	0.60	1.06	1.2	1.11
心臓疾患		0.43	0.3	1.20	0.41	0.3	2.22
歯 { う処置完了者 歯未処置歯のある者		6.93	8.7	4.19	15.48	18.2	0.93
		79.44	72.7	37.13	66.80	66.8	75.00

栄養注意者が全国ならびに県平均に比べて約5倍～6倍も多い。近視、トラホーム、中耳炎ならびに女子の心臓疾患が多い。

わたくしたちが昭和38年2月25日から昭和38年3月26日にわたって任意に戸ごとに訪問して疾病の有無をたずねて、予め疾病名を印刷した調査表へ記入した調査票から甲状腺肥大、夜盲症、中耳炎、ちく膿症罹患の児童生徒数を集計するとつぎのようになる。

第 29 表

	甲 状 腺 肥 大	夜 盲 症	中 耳 炎	ち く 膿 症
郷 地 区	0	0	5	1
浦 地 区	1	0	5	2
小室地区	15	4	18	16

この集計表と健康診断の集計表(第27表, 28表参照)と比較して耳鼻科, 眼科の専門医による健康診断の必要性を痛感する。

寄生虫，トラホームの治療と予防を「児童生徒には養護教諭，一般民には保健婦」が中心になって撲滅できるように積極的な措置を実施することが望ましい。中学校卒業生の就職の実態（第25表，26表参照）からも健康で愉快に情操が安定して活気のある精神状態で働けるように保健管理を進めなければならない。

健康診断票に矯正視力，聴力検査，予防接種の事項などを記載してない。健康診断日に休んだ児童生徒に対しての措置がとられていない。健康診断票の集計成績は保健教育と管理また国民の体位を知るにも重要な資料であるから各学校では，整理して大切に保管するようにつとめねばならない。

耳鼻科，眼科，歯科の専門医の治療をうけるには，早朝のバスで出かけても昼頃までかかって学習時間が少なくなる。営利を目的としない巡回診療と予防の措置を長い間おきざりにされている子どもたちのために早急にとらなければならない。とくに交通の便を考慮して歯の健康保険による入院治療の制度も必要である。

栄養改善による抵抗力の増進，暗い室内で勉強机もなく，イロリの周囲でねころんだり，坐っなどの悪い姿勢で予習，復習に励んでいる子どもたちの実状を認識して地域社会に適した生活指導を進めていく努力のなかで教育効果は少しずつでも期待できるはずである。

地元負担金の問題などで困難な点もあるにちがいないが1日も早く学校給食の実現と養護教諭を配置して福祉教員，健康教育担任教師や学校薬剤師らとの協力によって職責を全うしてもらえるように努力をつづけねばならない。

地域の健康とつらなる学習，例えば夜盲症や甲状腺肥大を考慮した食物，工作の時間に簡便な机，電気スタンドをつくって近視予防について考えるなど計画をたててみる必要がある。

第30表 興津小中学校寄生虫卵検査成績

検査方法：直接塗抹，集卵と培養法併用

昭和38年2月25日検査

	ポリエチレン袋 配布総数	材料提出 人 員	保 有 率						虫 卵 陽 性 率
			回 虫	鞭 虫	鉤 虫	東洋毛線 虫	蟯 虫		
小 学 校	364	225	36.89%	66.22%	2.22%	1.78%	1.33%		77.33%
中 学 校	229	36	25.00%	55.56%	2.78%	0	0		66.67%

学校を通じてポリエチレンの袋を1人1人に渡して，その袋に大便をいれて提出するように連絡した。その結果，サンプル提出率は小学校61.8%，中学校15.7%であった。セロテープ提出率は小学校84.1%，中学校24%となっている。全員揃って検便を自主的にうけるように1日も早く保健教育が浸透しなければならない。

第31表 セロテープ一回法

	材 料 提 出 員 人	蟯 虫 卵 率 保 有 %
小 学 校	306	41.50
中 学 校	55	23.81

第32表 問診，視診と触診による小室地区の甲状腺の肥大している子ども（性別，年齢別）

昭和39年4月6日現在

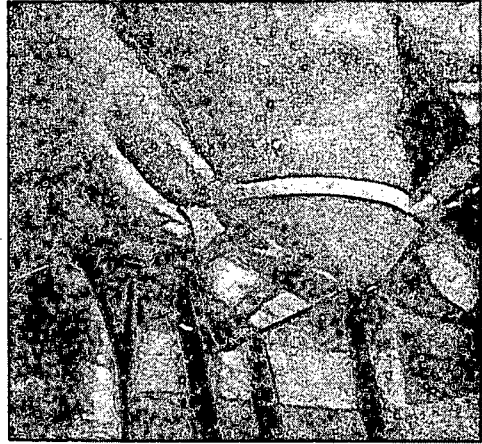
42 名	男 15名	5 才 以 下		6 ～ 11 才		12 ～ 15 才	
		男	女	男	女	男	女
	女 27名	2	5	7	8	6	14

注 専門医による精密検査，治療と予防措置が必要である。

第48図 例1 (男児)



第49図 例2 (女児)



第33表 小室地区の夜盲症の子ども (年令別, 性別)  
——夕方があると目がみえないと訴えている子ども——

昭和39年1月15日現在

5 名	男 2 名		6 ~ 11才		12 ~ 15才	
	女 3 名		男	女	男	女
			1	1	1	2

4. 質問事項「22」を予め用意して, 小学校1. 2 年は口答で, 小学校3年以上は筆答によって調査した. その調査の集計

第34表 興津小中学校児童生徒の地区別男女別表

昭和38年2月現在

			郷 地 区			浦 地 区			小 室 地 区		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
小 学 校	1	年	13	10	23	16	8	24	6	6	12
	2	年	10	6	16	10	8	18	3	6	9
	3	年	15	11	26	14	15	29	6	8	14
	4	年	7	9	16	15	12	27	9	7	16
	5	年	14	13	27	8	10	18	6	6	12
	6	年	14	13	27	15	20	35	9	6	15
	総	計	73	62	135	78	73	151	39	39	78
中 学 校	1	年	15	18	33	18	13	31	8	9	17
	2	年	23	9	32	12	15	27	12	6	18
	3	年	15	11	26	14	19	33	4	8	12
	総	計	53	38	91	44	47	91	24	23	47

子どもたちの生活は, 質問事項を予め用意して, 小学校1, 2 年生は口答で, 小学校3年生以上は筆答の方法によった.

調査期間は, 昭和38年2月25日~昭和38年3月2日である.

わたくしたちは、22の質問事項について、学年別、地区別に集計をおこなった。そのなかから  
 「学用品は必要な時にすぐ買ってくれますか」  
 「雑誌を毎月買っていますか」  
 の事項について小、中学校別、地区別に第50図～第51図に示した。

「学校へ来るのが楽しいですか」と高等学校への進学希望の事項については、学年別、地区別に第35表、第36表、第52図に示した。

「どんな家に住みたいですか」

「毎日楽しく暮すためおうちの人にどのようにしてもらいたいですか」

「大きくなったらどんな人になりたいですか」

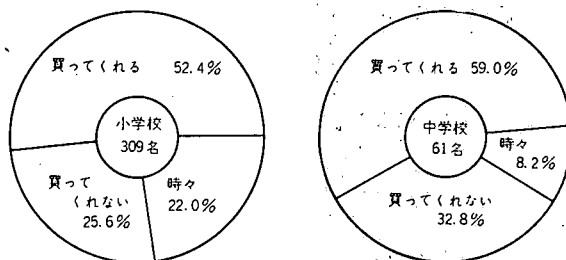
「皆が幸福になるために、どのようにすればよいと思いますか」

テレビ、ラジオ、新聞の普及率と映画を見る回数についての以上6問は、集計のなかから、小学校3年と6年、中学2年を抽出して第37表～第40表、第53図、第54図に示した。

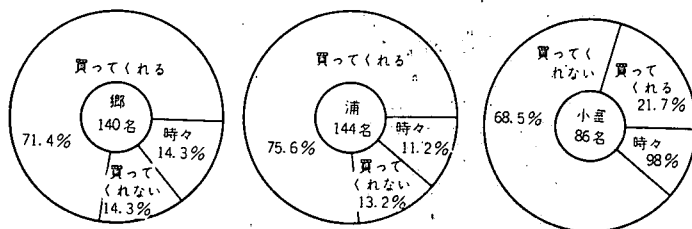
第50図 学用品は必要な時にすぐ買ってくれますか

昭和38年2月25日～昭和38年3月2日調査

a. 学校別



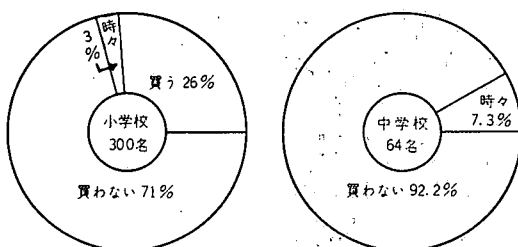
b. 地区別



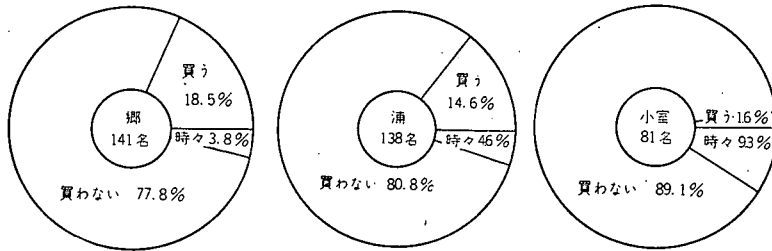
第51図 雑誌を毎月買っていますか

昭和38年2月25日～昭和38年3月2日調査

a. 学校別



b. 地 区 別



第35表 学校へ来るのが楽しいですか

昭和38年2月25日～昭和38年3月2日調査

地 区 名		郷 (%)	浦 (%)	小 室 (%)	全 体 (%)
こ	た え				
小 1 年	{ たのしい たのしくない	100 0	100 0	100 0	100 0
2 年	{ たのしい たのしくない	100 0	100 0	100 0	100 0
3 年	{ たのしい たのしくない ふ つ う	91.7 4.2 4.2	86.2 10.4 3.4	100 0 0	90.9 6.1 3.0
4 年	{ たのしい たのしくない ふ つ う	35.7 28.6 35.7	44.0 48.0 8.0	46.7 40.0 13.3	42.5 40.7 16.8
5 年	{ たのしい たのしくない ふ つ う	23.1 46.2 30.8	37.5 25.0 37.5	27.3 36.4 36.4	28.3 37.7 34.0
6 年	{ たのしい たのしくない ふ つ う	73.3 20.0 6.7	81.3 12.5 6.3	25.0 75.0 0	66.7 28.2 5.1
中 1 年	{ たのしい たのしくない ふ つ う	38.5 23.1 38.5	33.3 50.0 16.7	40.0 20.0 40.0	37.9 27.6 32.5
2 年	{ たのしい たのしくない ふ つ う	61.5 15.4 23.1	75.0 25.0 0	33.3 33.3 33.3	56.5 26.1 17.4
3 年	{ たのしい たのしくない ふ つ う	100 0 0	— — —	0 100 0	33.3 66.7 0

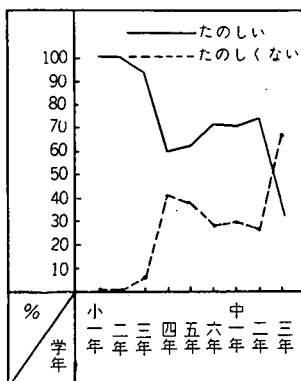
第36表 高等学校への進学希望について

昭和38年2月25日～昭和38年3月2日調査

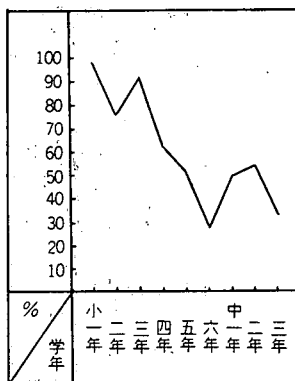
地 区 名		郷 (%)	浦 (%)	小 室 (%)	全 体 (%)
こ	た え				
小 1 年	{ 行 行 行 き かな た ない	100 0 0	95.6 4.4 0	100 0 0	98.3 1.7 0
2 年	{ 行 行 行 き かな た ない	100 0 0	70.0 30.0 0	50.0 50.0 0	75.7 24.3 0
3 年	{ 行 行 行 き かな た ない 明	87.5 8.3 4.2	89.7 6.9 3.4	92.1 7.9 0	89.6 7.5 3.0
4 年	{ 行 行 行 き かな た ない 明	76.5 17.7 5.9	60.0 40.0 0	46.7 53.3 0	61.2 36.8 1.9

地区名		郷 (%)	浦 (%)	小室 (%)	全体 (%)
こたえ					
5 年	行	61.5	35.3	54.6	51.9
	行	19.2	41.2	45.5	31.5
	行	19.2	23.5	0	16.7
6 年	行	26.7	31.3	25.0	28.2
	行	73.3	68.7	75.0	71.8
中 1 年	行	71.4	50.0	0	43.8
	行	28.6	25.0	80.0	43.8
	行	0	25.0	20.0	12.5
2 年	行	46.7	42.9	42.9	44.8
	行	46.7	42.9	14.3	37.9
	行	6.7	14.3	42.9	17.2
3 年	行	100	—	0	33.3
	行	0	—	100	66.7

第52図 毎日学校が楽しいですか



高等学校への進学希望



第37表 どんな家に住みたいですか

昭和38年2月25日～昭和38年3月2日調査

地区名		郷 (24名)	浦 (29名)	小室 (14名)
こたえ				
小学 1 年生	立派な家	25.0 (%)	24.2 (%)	57.1 (%)
	新しく広い家	8.3	10.3	0
	小さくない家	25.0	27.6	21.4
	きれいな家	8.3	3.5	0
	その他家	20.8	20.7	7.1
	不明	8.3	10.3	14.3
		4.2	3.5	0
		郷 (15名)	浦 (16名)	小室 (18名)
小学 6 年生	大きな家	73.33 (%)	56.25 (%)	37.5 (%)
	きちんとした家	6.67	18.75	12.5
	整っている家	0	6.25	0
	明るい家	0	12.5	0
	アパーメント	0	6.25	0
	鉄筋コンクリート	6.67	0	25.0
	中くらいの家	6.67	0	12.5
	庭の大きな家	0	0	12.5
	その他	6.67	0	0

		郷 (15名)	浦 (7名)	小 室 (7名)
中 学 2 年 生	家の家	6.67 (%)	0 (%)	0 (%)
	家の家	26.67	14.29	14.29
	家の家	0	14.29	0
	家の家	0	28.58	14.29
	家の家	0	14.29	0
	家の家	0	14.29	0
	家の家	0	0	14.29
	家の家	0	0	14.29
	家の家	6.67	0	0
	不明	59.99	14.29	42.87

第38表 毎日楽しく暮すためにうちのの人にどのようにしてもらいたいですか

昭和38年2月25日～昭和38年3月2日調査

地区名		郷 (24名)	浦 (29名)	小 室 (14名)
こ	た え			
小 学 3 年 生	けんかをしない	41.9 (%)	48.2 (%)	50.0 (%)
	働かせる	16.6	20.7	7.1
	家をたてる	4.2	3.5	14.3
	協力する	4.2	3.5	7.1
	幸福にくらす	0	3.5	14.3
	金をためる	0	6.9	0
	その他の	12.5	3.5	7.1
	わからない	20.8	10.3	0

		郷 (15名)	浦 (16名)	小 室 (8名)
小 学 6 年 生	けんかをしない	6.67 (%)	6.25 (%)	0 (%)
	皆で母をたすける	0	6.25	0
	生活設計をたてる	0	6.25	0
	病気をなくする	0	6.25	0
	家族が助け合う	0	0	25.0
	道具をそろえる	6.67	0	0
	わからない	86.71	75.0	75.0

		郷 (15名)	浦 (7名)	小 室 (7名)
中 学 2 年 生	今のままでよい	0 (%)	14.29 (%)	14.29 (%)
	子供の意見を理解する	0	0	28.57
	お金があればよい	0	0	14.29
	ほがらかな気持ち	0	0	14.29
	たのしくする	0	0	14.29
	豊かな生活	6.67	0	0
	励まし合う	6.67	0	0
	怒らない	0	14.29	0
	その他の	0	14.29	0
	わからない	86.67	57.14	14.29

第39表 大きくなったらどんな人になりたいですか

昭和38年2月15日～昭和38年3月2日調査

地区名		郷 (24名)	浦 (29名)	小 室 (14名)
こ	た え			
小学 3 年 生	会 社 員	8.33 (%)	13.79 (%)	21.43 (%)
	職 業 ス ポ ー ツ 人	16.67	27.58	7.14
	看 護 婦 人	4.17	13.79	21.43
	先 生	4.17	10.34	0
	歌 手	4.17	6.90	0
	洋 裁	4.17	3.45	0
	パ イ ロ ッ ト	4.17	3.45	0
	船 長	0	0	21.43
	そ の 他	29.08	6.90	28.57
わ か ら な い		25.07	13.80	0
		郷 (15名)	浦 (16名)	小 室 (8名)
小学 6 年 生	先 生	6.67 (%)	18.75 (%)	0 (%)
	人 に 好 か れ る 人	0	5.25	12.5
	女 中	0	5.25	0
	歌 手	0	0	12.5
	科 学 者	0	0	12.5
	検 査 事 務 官	0	0	12.5
	警 察	0	5.25	0
	わ か ら な い	93.33	65.5	50.0
		郷 (15名)	浦 (7名)	小 室 (7名)
中学 2 年 生	運 転 手	6.67 (%)	0 (%)	0 (%)
	会 社 員	6.67	0	0
	立 派 な 人	6.67	0	14.29
	船 の 中	0	14.29	0
	先 生	0	14.29	0
	社 長	0	28.58	0
	有 名 人	0	14.29	0
	看 護 婦 人	0	0	14.29
	金 持	0	0	14.29
	首 相	0	0	14.29
	そ の 他	6.67	14.29	0
	わ か ら な い	73.38	14.29	40.84

第40表 皆が幸福になるために、どのようにすればよいと思いますか

昭和38年2月25日～昭和38年3月2日調査

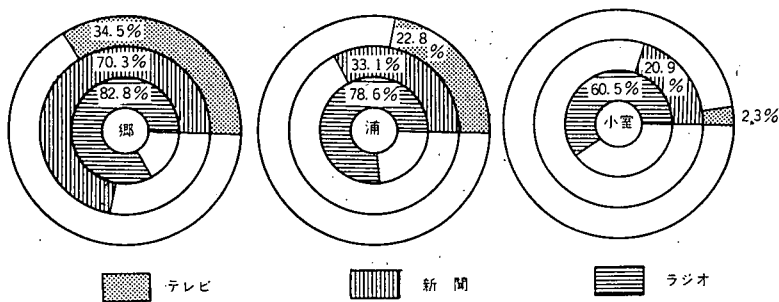
地区名		郷 (24名)	浦 (29名)	小 室 (14名)
こ	た え			
小学 3 年 生	協 力 す る	50.0 (%)	48.2 (%)	64.3 (%)
	働 く	4.2	13.8	0
	勉 強 す る	4.2	0	14.3
	仲 良 く す る	8.3	0	7.1
	身体を大切に	0	3.5	7.1
	無 駄 づ か い を し な い	4.2	3.5	0



	責 任 を も つ	4.2	3.5	0
	き れ い に す	4.2	10.3	0
	楽 し く 暮 す	8.3	3.5	0
	そ の 他	4.2	3.5	0
	わ か ら な い	8.3	10.3	7.1
		郷 (15名)	浦 (16名)	小 室 (8名)
小 学 6 年 生	協 力 す る	26.67 (%)	37.5 (%)	37.5 (%)
	仲 良 く す る	6.67	18.75	0
	困っている人を助ける	0	6.25	0
	皆 が 平 等 に す る	0	6.25	12.5
	戦 争 を な く す	0	0	12.5
	努 力 す る	6.67	0	12.5
	そ の 他	13.33	0	0
	わ か ら な い	46.67	31.25	25.0
		郷 (15名)	浦 (7名)	小 室 (7名)
中 学 2 年 生	力 いっぱい仕事をする	6.67 (%)	0 (%)	0 (%)
	努 力 す る	6.67	0	16.67
	協 力 す る	0	14.29	16.67
	他人のいやがる事をしない	0	14.29	0
	差 別 を な く す る	0	14.29	0
	政 治 を 良 く す る	0	0	16.67
	幸 福 に な る よ う に	0	0	16.67
	わ か ら な い	86.67	57.14	33.33

第53図 テレビ、ラジオ、新聞について

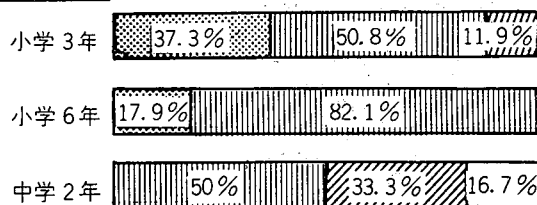
昭和38年2月25日～昭和38年3月2日調査



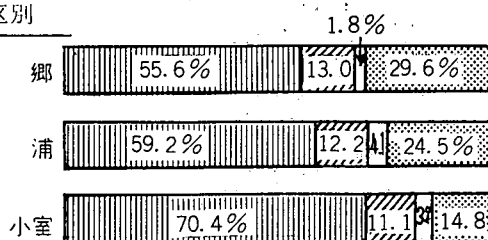
## 第54図 映画をみる回数

昭和38年2月25日～昭和38年3月2日調査

## a 学年別



## b 地区別



0回

1～2回

3～4回

5回以上

映画を見る回数とテレビ普及率(第53図参照)とが逆になっている。

つぎに質問事項を予め用意して口答による調査の集計例として小学校1年生, 筆答による調査の集計例として小学校5年生について具体的に述べる。

## 例1 子どもたちの生活

興津小学校1年生を理解するのに適当と考える質問事項をピックアップして集計した。

第41表 興津小学校1年生

	郷地区	浦地区	小室地区	計
人数	22	23	13	58

第42表

質問 (任意抽出)	答	1年生		郷地区		浦地区		小室地区	
		人数	率(%)	人数	率(%)	人数	率(%)	人数	率(%)
あなたは毎日学校へくのが楽しいですか。	はい い え	58	100	22	100	23	100	13	100
学校で先生はよく遊んでくれますか。	はい	24	41.4	9	40.9	10	43.5	5	38.45
	いい	12	20.7	5	22.6	5	21.7	2	15.4
	いいえ	21	36.1	8	36.4	8	34.8	5	38.45
あなたは学校に、お弁当を持っていますか。	はい	0	0	0	0	0	0	0	0
	いい	1	1.7	0	0	0	0	1	7.7
	いいえ	57	98.3	22	100	23	100	12	92.3
あなたはノート、鉛筆、えの具など欲しいと思う時、すぐかってもらえますか。	はい	45	77.5	20	91.0	21	91.0	4	30.8
	いい	3	5.2	0	0	2	9.0	1	7.7
	いいえ	10	17.3	2	9.0	0	0	8	61.5

あなたはクラスで背の高さはどの位ですか。	上 中 下 無 記 入	— — — 3	— — — 5.2	10 6 5 1	45.5 27.3 22.7 4.5	6 5 10 2	26.1 21.7 43.4 8.8	5 2 6 0	38.4 15.4 46.2 0		
あなたは毎日おこずかいを、もらいますか。	毎 時 も	日 々 も	ら わ ない	36 12 10	62.0 20.7 17.3	12 6 4	54.5 27.3 18.2	18 3 2	18.3 13.0 8.7	6 3 4	46.2 23.1 30.7
あなたは、今までに窪川、仁井田よりほかに、行ったことがありますか。	は い い	い い え		41 17	70.7 29.3	19 3	86.4 13.6	14 9	60.9 39.1	8 5	61.5 38.5
あなたのお家に病気をしている人がいますか。	あると答えた			16	27.6	3	13.6	5	21.7	8	61.5
あなたのお家に〔テレビ、ラジオ、新聞〕がありますか。	テレビがある ラジオがある 新聞をとっている			17 45 28	29.3 77.5 48.3	12 20 17	54.1 91.9 77.2	5 18 9	21.7 78.4 39.1	0 7 2	0 53.8 15.4
あなたは毎月決めて雑誌をかっていますか。	買 っ て い る	買 っ て い ない		27 31	46.6 50.4	14 8	63.6 36.4	12 11	52.2 47.8	1 12	7.7 92.3
あなたは、勉強が好きですか。	好 嫌	き い で す		58 0	100 0	22 0	100 0	23 0	100 0	13 0	100 0
あなたは、中学校をすんでから上の学校へ行きたいと思っていますか。	は い い	い い え		57 1	98.3 1.7	22 0	100 0	22 1	95.7 4.3	13 0	100 0
それについて、お家の人は、どんなに言っていますか。	行 き な さ い ま だ 何 も 言 わ な い だ め (働け)			24 30 4	41.4 51.7 6.9	10 11 1	45.5 50 4.5	12 11 0	52.2 47.8 0	2 8 3	15.4 61.5 23.1

家族の半数は 学令期の 子ども という 家が多い。また母親が家事のみに従事しているのは全体の約10%で約90%は外で働いている。

学用品をすぐ買ってもらえない子どもが、小室地区には61.5%もいる。

地区差がはっきりあらわれているのは、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌の事項である。

雑誌は「学習」という学校雑誌で学習に直接の関係のない雑誌を買っている子どもは郷地区に1名である。

子どもの好きなテレビ番組は ①ゾロ ②眉月の誓い ③名犬ラッシー ④お笑い三人組、ライフルマン、うちのママ姉ちゃん、カートライト兄弟、ジャジャ馬億万長者、マンガ、西部の対決、事件記者、ゼロ戦などの順である。

映画は「チャンバラ」「うちあい」「せんそう」「てっぽう」「マンガ」などという答えが多い。マスコミの子どもたちへの影響について検討する必要がある。

子どもたち自身の将来の希望、考えていることについて

△あなたは大きくなったら何になりたいですか。

保育の先生(2名)、先生(9名)、警察(6名)、船長(1名)、漁夫(1名)、運転手(9名)、車掌(1名)、すもと(1名)、テレビ屋(1名)、大工(2名)、会社員(4名)、店屋(3名)。

△それについてお家の人はどう言っていますか。

「よい」2名、「ほかのものになれ」6名、「なにも言わぬ」32名。

第43表 子どもの家の職業

	郷 地 区	浦 地 区	小室地区
漁 業	0	13	7
農 業 (促成園芸を含む)	16	0	0
出 か せ ぎ	0	3	2
失 対	2	1	2
そ の 他	4	5	1
病 気	0	1	1

△あなたは中学校をすんでから上の学校に行きたいと思いますか。

「はい」57名,「いいえ」1名。

△それについてお家の人はどんなに言っていますか。

「行きなさい」24名,「何も言わぬ」30名,「だめ」4名。

△あなたはこれから毎日楽しくすごすためにお家の人がどんなにしたらよいと思いますか。

この質問に対しては、ほとんど無解答。解答のあったなかでは「やさしくしてほしい」が多数でそのほか「お金をくれるとよい」「良いおかずがほしい」「洗たくをきれいに」などというものもあった。

△あなたは大きくなったらどんなお家に住みたいと思っていますか。

「きれいな家」19名,「二階だて」7名,「お城」5名,「大きな家」15名,無記入12名。

△あなたは、わたしたちみんなが幸せになるためにはどうしたらよいと思いますか。

「わからない」51名,「なかよく」3名,「働けばよい」2名,「遊べばよい」1名,「勉強したらよい」1名。

## 例2 子どもたちの生活について

第44表 興津小学校5年生

	郷地区	浦地区	小室地区	計
人数	26	17	11	54

第45表 あなたは毎日学校へ来るのが楽しいですか

	郷地区		浦地区		小室地区		計	
	人数	率(%)	人数	率(%)	人数	率(%)	人数	率(%)
はい	6	23	6	35	3	27	15	28
普通	8	31	6	35	4	36	18	33
いいえ	12	46	4	24	4	36	20	37
解答なし	0	0	1	6	0	0	1	2

第46表 学校で先生はよく遊んでくれますか

	郷地区		浦地区		小室地区		計	
	人数	率(%)	人数	率(%)	人数	率(%)	人数	率(%)
はい	1	4	2	12	0	0	3	6
普通	9	35	3	17	3	27	15	28
いいえ	16	61	12	71	8	73	36	67

第47表 あなたは学校にお弁当を持っていますか

	郷地区		浦地区		小室地区		計	
	人数	率(%)	人数	率(%)	人数	率(%)	人数	率(%)
はい	0	0	0	0	0	0	0	0
時々	2	8	0	0	1	9	3	6
いいえ	24	92	17	100	10	91	51	94

お弁当は、5年生全員もってきていない。昼休みに自宅へ昼食に帰っている。

第48表 あなたは、ノート鉛筆、えの具など欲しいと思う時、すぐ買ってもらえますか

	郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区		計	
	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
は い	8	31	6	35	2	18	16	30
時 々	13	50	9	53	0	0	22	40
い い え	5	19	2	12	9	82	16	30

第49表 教科書は全部持っていますか

	郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区		計	
	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
全部ある	19	73	13	76	5	45	37	69
ない	7	27	4	24	6	55	17	31

ない本：音楽 7名  
毛筆 6名  
硬筆 5名  
地図 3名

第50表 あなたは学校でクラブ活動に参加していますか

	郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区		計	
	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
は い	11	42	2	12	3	27	16	30
い い え	15	58	15	88	8	73	38	70

クラブ活動：筆の友  
珠 算

第51表 あなたはクラスで背の高さはどの位ですか

	郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区		計	
	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
上	8	30	5	29	4	36	17	31
中	9	35	7	41	2	18	18	33
下	9	35	5	29	5	45	19	36

第52表 あなたは学校で委員になったことがありますか

	郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区		計	
	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
あ る	13	50	5	29	4	36	22	41
な い	13	50	12	71	7	64	32	59

第53表 あなたは勉強が好きですか. きらいな人はどうしてでしょう

	郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区		計	
	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
好 き	1	4	1	6	0	0	2	4
普 通	21	81	16	94	9	82	46	75
嫌 い	3	11	0	0	2	18	5	19
無 解 答	1	4	0	0	0	0	1	2

嫌いな理由 算数があるから：4名

音楽があるから：1名

先生が叱るから：1名

第54表 あなたは毎日おこずかいをもらいますか. もらう人はいくらもらうか書いて下さい

	郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区		計	
	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
は い	8	31	12	71	1	9	21	39
時 々	13	50	5	29	6	55	24	44
い い え	5	19	0	0	2	18	7	13
無 解 答	0	0	0	0	2	18	2	4

金額は5円, 10円, 使い途は「お菓子」という答えが多く「貯金をする」は, 郷地区1名, 浦地区2名, 小室地区1名である.

「あなたのお家に病気をしている人がいますか, ある人は誰が何の病気か書いて下さい」の答えは, 小室地区の子どもで, 家族全員が健康であるは11名中2名. 郷地区と浦地区の子どもは無解答が多い.

持ち物について

第 55 表

	郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区	
	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
カバンのない者	1	4	0	0	2	18
絵の具のない者	0	0	1	6	1	9
カサのない者	4	8	1	6	3	27

参考書, セーラー服は1名も持っていない.

第56表 あなたは今までに窪川, にいだよりほかに行ったことがありますか

	郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区		計	
	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
あ る	18	69	12	71	7	64	37	69
な い	7	27	5	29	1	9	13	24
無 解 答	1	4	0	0	3	27	4	7

第57表 あなたは毎月何回ぐらい映画に行きますか

		郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区	
		人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
0	回	10	38	2	12	1	9
1	回	6	23	2	12	4	36
2	回	7	27	5	29	3	27
3	回	1	4	4	24	0	0
4	回	0	0	1	6	1	9

第58表 えいがに行く時誰と行きますか

		郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区	
		人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
1 人 で 行 く		2	4	1	6	2	18
誰 か と 行 く		20	77	15	88	9	82

第59表 あなたは毎月決めて雑誌を買いますか

	郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区		計	
	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
は い	12	46	3	18	1	9	16	30
い い え	14	54	13	76	5	45	32	59
時 々	0	0	1	6	5	45	6	11

第60表 あなたは中学校をすんでから上の学校へ行きたいと思いますか

	郷 地 区		浦 地 区		小 室 地 区		計	
	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)	人 数	率 (%)
行 き た い	16	62	6	35	6	55	28	52
行 き た く な い	5	19	7	41	5	45	17	31
わ か ら な い	5	19	4	24	0	0	9	17

進学については行きたいと答えた子どもは家の者も進学を希望している。小室地区の子どもで本人は行きたいが家の者は「お金がないき、いかんねえ」というと1名が答えた。行きたくないと答えた子どもは家の者も無頓着である。

「あなたは大きくなったらどんな人になりたいですか」の答は、現実とかけはなれた歌手、探検家などは少くて、先生、看護婦、会社員、美容師などが多い。

「これから毎日を楽しく過ごすためにお家の人がどんなにしたらよいと思いますか」の答は、わからないが過半数である。そのほか「怒らない、仲良く暮す、皆が健康でほがらかに」などで地区差はみられない。

「どんな家に住みたいですか」の答は、小室地区の子どもが天皇の住んでいるような家と書いてあったほかは、「中ぐらいの家」を望んでいる子どもが多い。

「わたくしたちみんなが幸せになるためにはどうしたらよいと思いますか」の答は、原文のまま記載する。

郷地区・日本人の中にはスリをする人がいるのでしないようにしたらいいと思う。あきすがはいらないように気をつけるといい。

- ・みんながむりをしないできょう力をしてくらしたら幸せになれると思います。
- ・みんながまじめにしごとをしたらよい。
- ・わるいことをしていたらとめたりしてわるい人をふやさない。
- ・わたくしたちのことはほうっておいてじぶんのことをかかんがえればよい。
- ・みんながなかよくしたらよいと思う。
- ・げんばくのじっけんらをせんずつみんながなかよくくらしたらいい。
- ・みんなが力をあわせてなかよくくらす。
- ・わからない。
- ・たすけあいながらくらす。
- ・こうつうじこに会わないようにしたらいいと思います。
- ・みんながなかよくくらすとよいしやわせになるといい。
- ・みんながいっしょうけんめいにちからをあわしてはたらいたらみんながしあわせになるとおもいます。
- ・みんながかじにならないようにちゅういしたらよい。
- ・みんながはたらくようになったらよい。
- ・みんながいい人になれば幸になれる。
- ・みんなはたらくようになったらよい。
- ・金があったらよい。
- ・せんそうのないよのなかにみんながたすけあう。
- ・業ぎょうがさかんになったらいい。

浦地区・1人1人が気をつけていったらよいと思います。

- ・そうとうがすきぜす。
- ・わるいことはおたがいに注意しあってみんなにもんくをいわれないようにすることはまじめにしたらいいと思う。
- ・子とりのすばかなどをかけるとあさもたのじくてすこしこうふくになれるとぼくは思います。
- ・わからない。
- ・日本人が助けおうたらよいとおもいます。
- ・みんながはたらけるようになればいいと思っています。
- ・みんながはたらくようになったらよい。
- ・みんなが国のことをきょうりよくしあったらみんな幸せになると思います。
- ・けんかなどをしない。
- ・いくらまずしくても楽しいみんながたすけあってせんそうなんかしない方がいい。
- ・みんながたのしくくらすたらいいです。
- ・みんながはたらけるようになったらよい。つらいことはみんなではなしあったらよい。
- ・せんそうのない世の中。
- ・みんながなかよくはたらけるようになればよい。

小室地区・あまりやさいら米やむぎや食りょう品などをあまりねあげないようにしてもらいたい。

- ・おきつ小室はいままでき別されていきましたわたしたちもき別をなくすためにだんけつ



してたかいました。こんどからさ別しないようにしてもらいたい。

- ・しゅしょうがねあがりをせんとよい。
- ・さべつをなくしてげんばくをこのよからなくし、せんそうをなくする。えたこうみんをなくす。
- ・池田ないかくがぶっかねあげをしたり、びんぼう人はどうでもかまんという気持ちでいる。自民党とかアメリカ学昌こくとかいろいろなことをしている。ので気にくあん。それにいまの正治はびんぼうはどうでもかまんといっている。ぼくが、ないかくになったら国民みんな平和なくににして、たのしくらせるようにする。
- ・びんぼうの人をきはらない。
- ・いっしょうけいめいにはたらく。
- ・みんながゆたかにはたらくようにする。
- ・しずかでこふくなよのなか。
- ・みんながはたらくようになったらええとおもいます。

## 5. 同盟休校当時の子どもたちの作文など

雨ふれ

4年 男 (昭和37年度)

もう二十日ぐらい天気がつづいている。おばあさんも雨がふりゃええのになあといっている。たしも なしも きゅうりも なすも ごまも うえているものは、みんなよわっている。ぼくもしんばいになってきた。そしてばん 水道の水が できるとき すこしでも きゅうりなどにかけてあげる。しかしそればなことでは きゅうりなどは じよぶにならない。おとうさんも おかあさんも みんな 雨がふってくれりゃえのになあ と いく日まえからいっている。いまでは たいもなどは かれてい。またぼくの家だけでない。どこの家のさくもつはみんなよわっている。

海

6年 男 (昭和37年度)

いま海はおこっている 海がおこると 人や家をながしさう それでも、ぼくらにとって 海はいいときもある でも海がわるいんではない。台風がわるいんだ 台風だけでなく 雨や風がわるいんだ でも海はきまぐれだ。春や冬になると海はしずかできれいにすんでいて海はすずしそうだ 海はぼくらのしらないいろいろなところを しっているからしあわせだ 海の国はものすごく大きい

山のし

6年 男 (昭和37年度)

山は、とってもきれいだなあ 青々としげった山 とってもすずしいだろう こんな山を見ていると元気いっばいになりそうだ

ぼくには、なんにもわからない 山は元気そうな顔をしている ぼくも、一ど山みたいになりたいなあ 山は、とっても、いいんだなあ 山はぼくより しあわせだ

山と海

6年 男 (昭和37年度)

ぼくは 山と海に ちがって 盟休をつづけています。山は大へん広い それに 春になると山が きみどりになります。そして山は いろいろの みが なっています。くだものでは みかん、なし、やまももがいっばいなります 海も山とおなじにひろく 海わ台風がくることもあるが とつき とき よいこともあります。そして海は、ぼくらの盟休を 海全体に しらして くれますから海は大へんよい

山も ぼくらの盟休を 大きな口をあけてさげんてくれる。海も山もたいへんよい 終

## 盟休について

## 例 1.

中2 男子 (昭和37年度)

僕達がなでこなせまい いきぐるしい所で勉強しなければいけないのか なんとにしてもにくい反動分子、なで同じ部落に住んでいて同じ人間をさべつするのか貴様らは何だその反動分子のおやじ〇〇 この事件が終っても でったいに許せない反動分子、この事件が僕達の勝利のあかつきには この小室部落からたたき出してやる、えたの部落に住まなくても良いだろう。反動分子達が僕達の進んでいく道をどれだけじゃまをしたか 郷や浦分に良いように見られたいためにいやな役目をさせられる反動分子。

郷分では人の食てのこっためしを食わされ ねる所は、ぶた小屋よりきたない所でねさせられ、反動分子はどうゆう心持であつたんでしょう 反動分子貴様らは何様なんだ 貴様達はいくら反対しても僕達の勝利はまちがいないし、〇〇共々反動分子をこの部落からたたき出してやる

## 例 2.

わたしたちは〇〇のためにこんなになっている。〇〇を守るけいさつ、教育長それに反対側はおにだ これらは けっして 正しいことはやっていない わたしたちは 正しいことをやっているそれに兄弟もいる みんなで〇〇の首をきろう ごう、うら、反対側は〇〇のどこがいいんだ 〇〇が首になるまでそして、さべつがなくなるまで何年かかっても 学校へは でったいいきません 私たちの勝利はちかい 〇〇の首のきれるときがくる それまで がんばろう 正義はかつ

## 興津闘争について

中3 女子 (昭和37年度)

私達は、3ヶ月盟休を続けました。それで今は、やっと学校に登校しております。盟休の間には大へんつらい事や苦しい事、悲しい事、うれしい事などに色々とお出合いました。9月1日に登行してから2ヶ月位学校に行きますけれど学校では少しも面白くない。話し合いをしてみると、すぐ対立してしまう。何事もけんかになって今だに、郷、浦分の生徒とは仲良くなれない。私達は、それでもがまんして学校に行っている。でも時々、男子が、大あばれする時もある。私達は盟休を打つのはこれで四回目です。最初の三回は余り大きい盟休ではなかったけれど今度の盟休だけ大きな盟休は有ません。 以下略

わたくしたちの調査にたいして興津の子どもたちが反対でないことは、蟻虫卵検査に当って、喜んで肚門にセロテープをあててサンプルをつくることに協力したことやまたつきの作文、手紙などからも知ることができる。

## ①私達の健康の事を思っ各県の環境について調べてくれている〇〇先生

私達は〇〇先生に何とか感謝しなければならない

美しい心を持ち 又とも やさしい 人にあたたかく感じられる心や 表現をもつ 〇〇先生 私達は 先生の心には いつも 美しく 何か 心の中に「パッ」と明るい 光がさしこむと同時に 心の中には あたたかく感じられるとしか 私には考えられない そういう心をもって 全国の環境について調べるのを いつまでも心豊かに、つづけて下さい 中1 女子

## ②私たちの健康 栄養を そして窪川町興津の発達のため どんどん進めて下さい

おねがいします 先生へ 中1 女子

## ③「……前略……私、なんで皆んな本など読んでいるだろうかと思っていたら先生がこれは東京の〇〇〇〇様を送って下さった本なのですよと言いましたので私はさっそく御返事を書かなくてはと思って突然書いたのです……略……お金がいる事だろうにあんなに多さんの物を送って下さってほんとうに有りがとう。雨の日もほたえずに(しずかにして)過せるわ。有りがとうネ。ほんとうに有りがとう……略……」 中3 女子

## ④「またきたかあ。4日5日おっていけよ。泊まれよや。ええかあ。いぬるなよ。」

「なんつうやあ、今日いぬるのかやあ、3日ばあおっていかんかあ。」などの挨拶をうける。

- ⑤甲状腺肥大の消退した子どもたちは「先生心配すなよ、ええかあ、ようなりよるけん、みてくれるかあ。」とよりそってくる。また「先生きたかあ、もうちったあ、さいさいこんかあや、ええかあ、まちかねるけん、先生心配するにゃおよばんぞ、ええかあ。」とか「みてるかあ、なうなつつろがやあ、ここまでおいで、ここまでおいで。」とかけながら、朗らかな大声をあげて、小室地区の方へ誘導していくように仕向ける子どもたちもいる。

## 6. CMI健康調査票などによる調査集計例

文明国であって豊かな国ほど犯罪と非行の青少年が増加してきている。これは社会生活のなかの病的症状の1つであって、傍観しているだけでは増加していくにちがいない。この問題に対処していくには、実践可能な治療と予防の1つの方策として学校と家庭がその防壁とならねばならない。

おきざりになっている子どもたちについて、社会病理学的、精神病理学的な面から実態を把握する1つの手がかりとして数年来CMI健康調査票、心臓病調査票、起立性調節障害調査票を併用して調査を実施してきた。

そのなかで、興津小学校5、6年生の調査集計をつぎに示した。

注 沖の島町、東洋町野根、高知市内などの児童生徒についての調査成績との比較は、後日詳細に報告する予定である。

第61表 CMI健康調査票

分	類	質 問 内 容	質問数	
	A	眼 と 耳	9	身体状態にかんするもの
	B	呼 吸 器	18	
▲	C	心 臓 血 管 系	13	
	D	消 化 器	23	
	E	筋 肉 骨 格 系	8	
	F	皮 膚	7	
	G	神 経 系	18	
	H	生殖泌尿器系	11	
▲	I	疲 労 度	7	
▲	J	疾 病 の 頻 度	9	
	K	種 々 の 疾 病	15	精神状態にかんするもの
	L	習 慣	6	
以下は気質や感じにかんするもの				
▲	M	不 適	12	
▲	N	抑 う つ	6	
▲	O	不 安	9	
▲	P	敏 感	6	
▲	Q	憤 怒	9	
▲	R	緊 張	9	
合 計			195	

▲：精神の不安定にかんするもの

## 第55図 心 臓 病 調 査 票

父兄の方々へのお願い

お子さんたちの心臓を守るための大切な資料になりますから、是非ご協力お願いします。  
 がいとうするところには○で囲んで下さい。

学 校 名		学 年 組	年 組	氏 名		生 年 月 日	昭和 年 月 日生	男・女
保氏 護者名		住 所				職 業		
問		答		説 明				
1	今までに医者に心臓病といわれたことがありますか。 あればそれは何といわれましたか。		ある（先天性、弁膜症、 がっけなど） ない		若い人達でも、日本では心臓病で死亡する人が多く、若い人達の心臓病の多くは心臓弁膜症で一部生れつきのがあります。			
2	少しの運動や階段の上り下り或は入浴のとき息切れがしたり、どうきがはげしくなりますか。		なる ならない		心臓がわるくなると、少し烈しい運動をしてもすぐどうきや息切れがします。			
3	今までに医者から (1)「リュウマチ」(2)「ぶとう病」だといわれたことがありますか。		(1) ない (____才の時) ある (2) ない (____才の時) ある		心臓弁膜症は、リュウマチ熱という病気からよくおこります。			
4	身体のふしぶしが痛んだり、はれたりしたことがありますか。特別にけがもしないのに。		ある (____才の時肩、 肘、手首、ひざ、 足首) ない		リュウマチ熱になると、よく関節（体のふしぶし）に症状をあらわします。			
5	腎臓炎やネフローゼにかかったことがありますか。		ある (____才の時) ない		腎臓炎になると、普通むくみがきます。			

## 第56図 起 立 性 調 節 障 害 の 調 査 票

お子さんたちの身体を守るための大切な資料になりますから、是非ご協力お願いします。  
 がいとうするところを○で囲んで下さい。

学 校		年		男 女	
姓 名				満 才	
保護者職業		住 所			
父 母	有 無	健康 健康	病気 病気		

## 大 症 状

- A. 立ちくらみ、あるいはめまいを起しやすい  
 B. 立っていると気持ちが悪くなる、ひどくなると倒れる  
 C. 入浴時あるいはいやな事を見聞すると気持ちが悪くなる  
 D. 少し動くと どうき あるいは息切れがする  
 E. 朝なかなか起きられず、午前中調子が悪い

## 小 症 状

- a. 顔色が青白い  
 b. 食欲不振  
 c. 臍痛（強い腹痛）をときどき訴える  
 d. 倦怠あるいは疲れやすい  
 e. 頭痛をしばしば訴える  
 f. 乗物に酔いやすい  
 g. 起立試験で脈圧狭小化 16 mmHg 以上  
 h. 起立試験で収縮期血圧低下 21 mmHg 以上  
 i. 起立試験で脈搏数増加 1 分21以上

j. 起立試験で立体心電図のTⅡの0.2 mV以上の減高, その他の変化

その他の症状

1. 左側の前胸痛
2. ため息
3. 学校の成績の低下
4. 不眠
5. 異常ないらだち
6. 軽度の四肢痛

判定

・大1. 小3 ・大2. 小1 ・大3以上の場合を O. D. とする

興津小学校5年生のCMI健康調査票による調査集計

昭和38年2月調査

第62表 調査人数 56名

	郷地区	浦地区	小室地区
男	14	8	7
女	12	9	6
計	26	17	13

第63表 保護者の職業 昭和38年2月調査

	郷地区	浦地区	小室地区
農業	15 57.8%	0 0%	0 0%
漁業	0 0	11 64.7%	6 46.2%
林業	1 3.8	1 5.9	1 7.7
商業	1 3.8	1 5.9	1 7.7
自由業	2 7.7	0 0	1 7.7
公務員	1 3.8	1 5.9	0 0
事務員	2 7.7	2 11.7	0 0
職人	2 7.7	0 0	0 0
日雇	2 7.7	0 0	0 0
無職	0 0	1 5.9	1 7.7
不明	0 0	0 0	3 23.0

第64表 「はい」の地区別総数

昭和38年2月調査

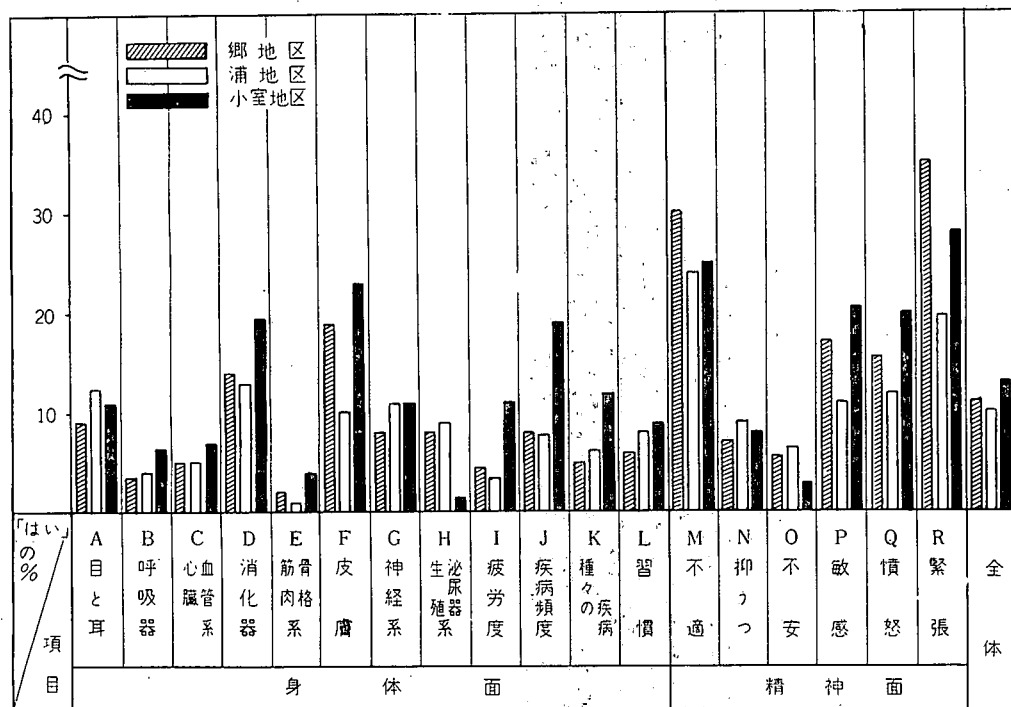
		0		1~10		11~20		21~30		31~40		41~50		51以上		総計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
郷地区	男	0	0	2	14.3	4	28.6	7	50.0	1	7.1	0	0	0	0	295	10.8
	女	0	0	0	0	7	58.0	3	25.0	1	8.3	0	0	1	8.3	260	11.1
	計	0	0	2	7.7	11	42.3	10	38.5	2	7.7	0	0	1	3.8	555	10.9
浦地区	男	0	0	2	25.0	2	25.0	2	25.0	2	25.0	0	0	0	0	157	10.1
	女	0	0	1	11.1	6	66.7	2	22.2	0	0	0	0	0	0	165	9.4
	計	0	0	3	17.6	8	47.1	4	23.5	2	11.8	0	0	0	0	322	9.7
小室地区	男	0	0	0	0	5	71.4	0	0	1	14.3	1	14.3	0	0	178	13.0
	女	0	0	0	0	2	33.3	2	33.3	1	16.7	1	16.7	0	0	155	13.2
	計	0	0	0	0	7	58.3	2	15.4	2	15.4	2	15.4	0	0	333	13.1

第 65 表

昭和38年2月調査

質 問		郷 地 区						浦 地 区						小 室 地 区					
番号	内 容	男		女		計		男		女		計		男		女		計	
			%		%		%		%		%		%		%		%		%
2	遠くをみるのに眼鏡がいるか	0	0	0	0	0	0	1	12.5	0	0	1	5.9	0	0	2	33.4	2	15.4
7	耳が遠いか	0	0	1	8.3	1	3.8	1	12.5	0	0	1	5.9	0	0	1	16.7	1	7.7
38	時に足がつかれるか	3	25.7	0	0	3	11.5	2	25.0	4	44.4	6	35.4	2	28.6	4	66.8	4	46.2
59	寄生虫がいたことがあるか	11	78.5	2	16.7	13	50.0	3	37.5	5	55.6	8	47.2	3	42.9	4	66.8	7	53.9
83	時々めまいがするか	1	7.1	1	8.3	2	7.7	1	12.5	0	0	1	5.9	1	14.3	0	0	1	7.7
92	爪をかむか	4	28.6	3	24.9	7	26.9	4	50.0	3	33.3	7	41.3	2	28.6	0	0	2	15.4
95	寝小便があるか	1	7.1	1	8.3	2	7.7	1	12.5	1	11.1	2	11.8	0	0	0	0	0	0
96	8～14才で寝小便があったか	5	35.1	4	33.2	9	34.6	3	37.5	2	22.2	5	29.5	5	71.5	1	16.7	6	46.2
121	自分の健康についての悩みでよわっているか	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	14.3	1	16.7	2	15.4
162	死んでしまいたいことがあるか	1	7.1	2	16.7	3	11.5	2	25.0	4	44.4	6	35.4	2	29.6	0	0	2	15.4

第57図 項 目 別 比 較



興津小学校6年生のCMI健康調査票による調査集計

第66表 調査人数 39名 昭和38年2月調査

	郷地区	浦地区	小室地区
男	8	6	5
女	6	10	4
計	14	16	9

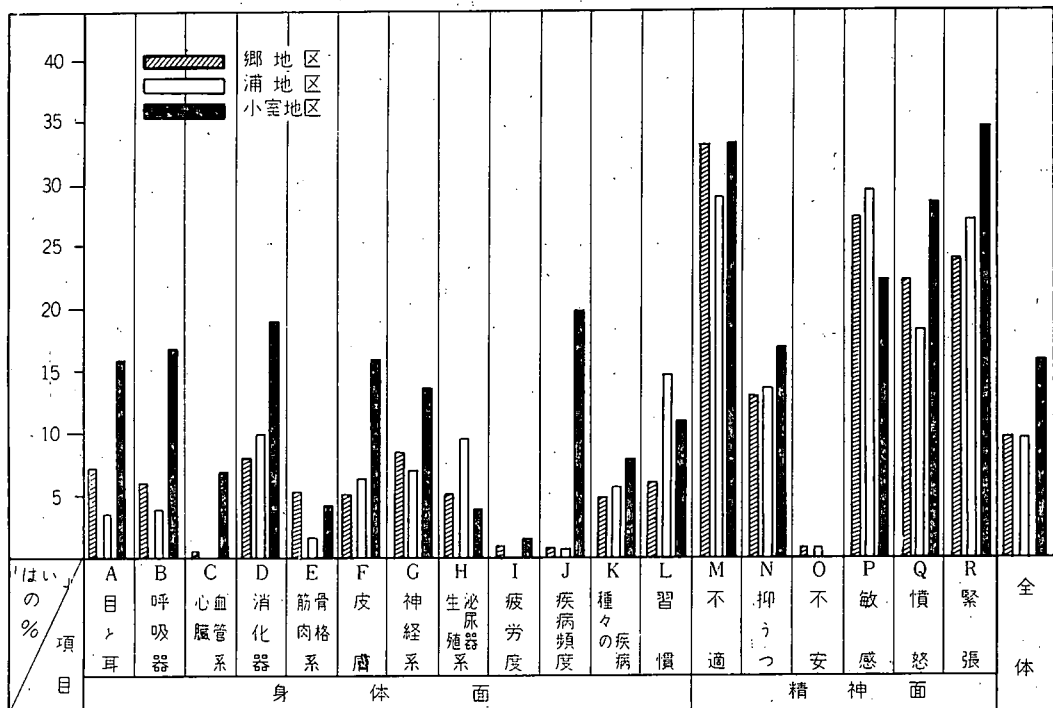
第67表 保護者の職業 昭和38年2月調査

	郷地区		浦地区		小室地区	
	数	%	数	%	数	%
農業	8	57.1	0	0	1	11.1
漁業	0	0	11	68.8	3	33.3
商業	1	7.1	2	12.5	0	0
林業	1	7.1	0	0	0	0
船員	0	0	1	6.3	0	0
事務員	0	0	1	6.3	0	0
労働者	2	14.3	0	0	1	11.1
職人	0	0	1	6.3	0	0
失対	1	7.1	0	0	2	22.2
無職	0	0	0	0	1	11.1
不明	1	7.1	0	0	1	11.1

第68表 「はい」の地区別総数

	郷		浦		小室	
	数	%	数	%	数	%
男	144	9.2	83	7.9	131	13.7
女	113	9.7	207	10.6	144	18.5
計	257	9.4	290	9.3	275	15.7

第58図 項目別比較



第69表 心臓病調査票による調査集計

興津小学校 5 年生 51 名				興津小学校 6 年生 39 名			
	答	男 24名	女 27名		答	男 20名	女 19名
症状 5 問	あ り	{ 3 名 12.5%	2 名 7.4%	症状 5 問	あ り	{ 0 名 —	1 名 5.3%
	な し	21 名	25 名		な し	20 名	18 名

第70表 起立性調節障害調査票による調査集計

「あり」と答えた児童の地区別および保護者の職業別

興津小学校 5 年生				56 名		「あり」と答えた者				49名						
症状21問	答	男 28名	女 28名	地区別	地区	郷	浦	小室								
	あり	{ 23 名 82.1%	{ 26 名 92.9%		人数	22	15	12								
					総数	26	17	13								
					率(%)	84.6	88.2	92.3								
なし	5 名	2 名														
備考：O. Dに相当する者 11名				職業別	職業	農	漁	公務員	商	事	職	自由	日	無	林	不
大症状	A—2名	e—21名	業		業	業	務	人	業	業	業	明				
	B—1名	f—28名	「あり」		12	15	1	3	4	2	3	2	2	3	2	
	C—35名	その他 1—5名	人数		15	17	2	3	4	2	3	2	2	3	3	
小症状	D—3名	2—3名	総数		80	88.2	50	100	100	100	100	100	100	100	66.7	
	E—4名	3—2名	率(%)													
	a—1名	4—3名														
	b—0名	5—0名														
c—22名	6—2名															
d—3名																

興津小学校 6 年生				39 名		「あり」と答えた者				19名						
症状21問	答	男 20名	女 19名	地区別	地区	郷	浦	小室								
	あり	{ 8 名 40 %	{ 11 名 57.2%		人数	3	9	7								
					総数	14	16	9								
					率(%)	21.4	56.3	77.8								
なし	12 名	9 名														
備考：O. Dに相当する者なし				職業別	職業	農	漁	商	職	失	船	林	労働者	事	無	不
大症状A（たちくらみ）—1名	小症状f（のりものよい）—19名	その他3（成績低下）—1名	業		業	業	人	対	員	業	者	務	職	明		
			「あり」		2	7	1	0	1	1	0	1	0	3	3	
			人数		9	12	3	1	3	1	1	2	1	3	3	
			率(%)	22.3	58.3	33.4	0	33.4	100	0	50	0	100	100		

## IV. ま と め

1. 昭和39年3月9日の高知県下公立高等学校入学試験答案用紙を受験生に配布し、受験生からミスプリントを指摘された。

昭和38年度2学期に興津小学校へ高知県教育委員会は養護教諭定員1名を増員して一般教師をあた。昭和39年4月その養護教諭の定員減の措置をとった。

高知県教育委員会は上述の事項と併せて現場における教育施策の問題として次のa～dについて



も検討する必要がある。

a: 高知県下公立高等学校の生徒に「学校設置者が県教育委員会である」という立て前から健康手帖を無償配布している。義務教育諸学校の児童生徒をぬきにして、このような公費による配布は珍しいケースのようである。

b: 公立高等学校生徒には、腸チフス、パラチフスの予防接種を無料で実施しているが、県内義務教育諸学校児童生徒に対しては、その措置をとっていない。

c: 公立高等学校へは洩れなく、学校薬剤師を1名宛配置して報償費から年間謝金として5,000円を払っている。義務教育諸学校で学校薬剤師を配置されている例は少く、また1人の学校薬剤師が5校～7校を兼務して謝金は年間公立高等学校と同額の5,000円という事例もあって、1校年間711円の割合となる。

d: 公立高等学校へは養護教諭も配置されている。

2. 窪川町教育委員会、興津小中学校と興津住民の協力と理解によって実施した一連の調査成績は昭和38年3月初旬来高知県教育委員会、同じく厚生労働部、窪川町教育委員会、窪川町役場興津支所、高知県立窪川保健所、興津小中学校ならびに郷、浦と小室地区長らに贈呈をつづけてきた。

3. 夜盲症や甲状腺肥大などの疾病調査集計後約7カ月経過しても高知県当局の積極的な措置は見られなかった。

4. 昭和39年10月14日から、夜盲症と甲状腺肥大者に試験的に肝油ドロップとヨウ素剤投与を開始した。

罹患者には予め「学理的には病気がよくなるはずであるが、病気を長年月そのままにしてきたため、甲状腺肥大者は腺組織がそうでない組織で占領されているためよくなる人びともあるかも知れない。極量を服用してもらいたいが、いつもわたくしが小室にいてみていることができないこと、1人の人が数種類の病気をもっているので副作用の点についても心配があることなどからとりあえず栄養剤の量が極量の $\frac{1}{6}$ ～ $\frac{1}{12}$ であるがこのこともわかってもらいたい。」など了解を得て実施した。

約1カ月後の11月24日には、予想以上の薬効があり、服用希望者が23名増して、78名となった。昭和39年4月6日現在91名である。

5. 地域社会の実態を把握して教育、せめて昭和33年に公布された学校保健法に示されている年間計画と月間計画を樹てて保健教育が実施されていたならば同盟休校などもおこらなかったはずである。

憲法や教育基本法にある人権と生命の尊厳性は表裏一体である。地域社会のなかにとけこんだ教育の必要性をこの調査を通して痛感した。

6. 健康診断も実のあるものでなくてはならない。健康診断の方法も考慮してなされたならば健康で学力も上昇したはずである。そして事後措置として調理実習や食物などの授業のなかで校下民の必要栄養素と量の最低限の問題などについて工夫され、子どもたちを仲介として家庭の生活のなかで応用されたであろう。

7. 学校薬剤師の職務について知識とその運用の方法を勉強していたならば、興津こそ学校薬剤師を配置せねばならない学校であると考えたはずである。

8. 現状を改善するには

① 健康診断の結果と地区民の疾病の実態と差がありすぎるので教育的立場から耳鼻科などの専門医による定期健康診断を実施して健康保持増進に役立つようにする。

② 学校給食法の目的を熟慮して学校給食を実施する。僻地は完全給食の実施が必要である。

学校飲料水などを含めた広義の環境整備に学校薬剤師の協力をうけることが、望ましくない事故を未然に防ぐために、また置きざりにされてきた教育環境を経済的、合理的、科学的に改善す

る方策として必要である。

③ 養護教諭を配置して病気の子どもへの家庭訪問、朝礼時の健康観察、学校で毎日一定の時間を設けて学校伝染病の1つであるトラホームに対する処置と指導、肝油剤とヨウ素剤を向う約1カ年間学校行事として児童生徒全員連続服用実行、集団駆虫の実施と指導など生命を大切にするという教育基本法にも示されていることの基礎づけを早急に実現しなければならない。

④ 各学校に配布される予算のなかに保健費の項目を設けて、学校保健管理に必要な費用を明記する。

⑤ 校長ならびに教師全員が学校保健教育と管理、安全教育について知識を養って積極的に教育の場で実践する。

などが必要条件である。

9. 不慣れな環境のなかで、健康を害しながら日夜働んでいる教師の疲労回復と健康を保持するために、長くとも3年勤続すれば、必ず本人の意志によって交代の自由が与えられなくてはならない。

10. 校長と一般教師に保健教育と管理についての関心をたかめさせ、子どもたちの保健福祉に必要な法規の理解、運用のできる教育能力をつけさせる手が打たれなくてはならない。

11. そのためには、県教育委員会や教員養成学部の機構、運営、人材などの問題についてのかかわりあいをもとりあげねばならない。

12. 調査を開始してから現在までの約1カ年半を回顧してみても、現地につきのような動きのあることを認める。

① 昭和38年4月下旬頃から興津専属の保健婦が配置された。

② 昭和38年5月5日に疾病を考慮した料理講習を協同研究者の栄養士たちで指導してから現地の主婦たちが食生活改善の努力をするようになった。約1年たって昭和39年3月頃から窪川保健所所属の栄養士による料理講習の計画もなされるようになった。

③ 昭和38年9月興津中学校へ2名、小学校へ養護教諭1名合計3名教師定員が増員になった。昭和39年4月小学校の「一般教師1名と養護教諭1名計2名」減員の措置があった。

④ 断え間なく安全に各家庭に給水できる飲料水の確保について考えるようになった。

⑤ 保健所の職務に対しての知識も育成されて、地区民から積極的に指導を要望する気運のきざしが現出してきた。

⑥ 昭和38年晩秋頃中学校によくPTAが発足した。

⑦ 昭和38年10月甲状腺肥大と夜盲症罹患者に、前者にヨウ素剤、後者に肝油ドロップを投与した。とくに子どもたちに薬効があり甲状腺肥大、夜盲症を遺伝と考え「昔からここにはあるという前近代的なあきらめを科学に対する信頼に切り換える」ことができるようになった。

⑧ 中学校庭と八幡宮境内の境界にはりめぐられていた有刺鉄線が昭和39年新学期からとりはずされて、校下の3地区民が協力して運動場拡張の対策を協議している。

⑨ 小中学校学校飲料水量などの改善の方法について努力しながら、使用中の井戸水を昭和39年5月頃から消毒薬による消毒を実行して、子どもたちの保健管理の第一歩へと踏み切った。

⑩ 小室地区生徒が昭和39年4月から高等学校へ6名進学した。男子生徒のなかから高知県立高知工業高等学校へ始めて進学できたことは、同和地区における産業構造の改善に将来役立つにちがいない。

⑪ 小室地区に昭和39年5月上旬共同作業場と洗濯場が設置された。

⑫ 小中学校で昭和39年5月7日から「生ミルク給食」が180cc、保護者負担額6円で毎日午前10時半頃実施されている。  
などである。

13. この調査研究をとおして、新しい哲学と理念、僻地問題対策のための研究機関の必要性をしみじみと感じた。

窪川町教育委員会、興津小中学校、郷地区長岡部金重氏、浦地区長徳弘寅治氏、小室地区長山中益市氏、浜添甲一氏、興津住民と高知大学卒業生・在学生20数名の絶大な協力によってこの調査ができた。

高知県の後進性対策の一環としてのこの調査研究に対して、高知大学文理学部荒木修・山崎重明教授、島山邦夫・楠正純助教授ならびに民俗学者桂井和雄氏らの一貫した助言と助力とがあった。

昭和39年4月6日に四天王寺学園短期大学教授富士貞吉氏と福島大学教授須藤春一氏が興津小中学校で飲料水、便所、校地など学校環境衛生について現地に適した実地指導を行って、安全な教育環境の必要性を具体的な事例を示して強調された。ひきつづいて小室地区で「地区民の検診と養生方法についての指示」をされた。

昭和39年5月17日に四天王寺学園短期大学教授富士貞吉氏から小室地区民へ聖徳太子稚児像を寄贈された。

昭和39年5月21日に高知新聞社福祉事業団から肝油ドロップ14,400粒、つづいて昭和39年6月上旬に昭和大学教授小松信彦氏から甲状腺肥大治療剤としてヨウ素剤(ヨウレチン錠:1錠中ヨウレチン1.50mg含有)、新堀小学校PTAから衣類などの寄贈とその他薬剤・電気バリカンの輸送に際して高知新聞社谷是氏の助力をうけたことを付記する。

## V. 文 献

- 1) 小松, 松尾: 保健科教育における教育技法の分析 第1報, 成長発育. 高知大学学術研究報告, 5巻, 7号, 1頁~16頁, 昭和31年
- 2) 小松, 松尾: 保健科教育における教育技法の分析 第2報, 学校飲料水. 高知大学学術研究報告, 6巻, 7号, 1頁~15頁, 昭和32年
- 3) 小松, 松尾, 黒島: 保健科教育における教育技法の分析 第3報, 高知県下における学童と寄生虫の問題, とくに肺吸虫の中間宿主としてのアメリカザリガニ *Cambarus clarkii* (GIRARD) について. 高知大学学術研究報告, 7巻, 15号, 1頁~8頁, 昭和33年
- 4) 小松寿子: 養護教員のありかた. 第6回日本学校保健学会総会演説要旨, 87頁, 昭和34年
- 5) 鈴江, 柳川, 井上: 保健教育の立場から調査した稲生地区学童の寄生虫卵保有状況. 第6回日本学校保健学会総会演説要旨, 170頁~173頁, 昭和34年
- 6) 佐野, 田中: 新庄川と日下川流域の学童と寄生虫の問題について. 第6回日本学校保健学会総会演説要旨, 173頁~174頁, 昭和35年
- 7) 池中, 鈴江, 中島, 青野, 森: 保健教育の立場から調査した高知県内の幼児児童生徒の肺吸虫症皮内反応について. 第7回日本学校保健学会プログラム, 28頁~29頁, 昭和35年
- 8) 広瀬, 佐野, 柳川, 松村, 上田, 富田: 高知県内の幼児児童生徒の蟯虫卵保有率と感染経路についての考察. 第7回日本学校保健学会プログラム, 29頁~30頁, 昭和35年
- 9) 小松, 松村: 保健科教育における教育技法の分析 第4報, 高知県産の雷魚について. 高知大学学術研究報告, 11巻, 自然科学II, 1号 1頁~4頁, 昭和37年
- 10) 久米田, 広瀬, 高橋: 高知県立盲学校における成長発育に関連する教育環境の問題点について. 第9回日本学校保健学会総会講演要旨集, 32頁, 昭和37年
- 11) 門谷, 平野, 林, 如山, 中島: 高知県立高知聾学校における身体的精神的発達と環境衛生について. 第9回日本学校保健学会総会講演要旨集, 32頁~33頁, 昭和37年
- 12) 松村, 佐野, 小松: 宿毛市沖の島町小, 中学校における定期健康診断, とくにう歯対策について. 第9回日本学校保健学会総会講演要旨集, 39頁, 昭和37年
- 13) 佐野, 田所, 小松, 岡本: 高知県内僻地の1例としての沖の島における教育とその背景について. 日本教育学会第21回大会自由研究. 課題研究. シンポジウム発表. 提案要旨集録, 248頁~250頁, 昭和37年

- 14) 久米田, 広瀬, 小松, 岡本 : 高知県立盲学校における教育の動向と健康管理について. 日本教育学会第21回大会自由研究. 課題研究. シンポジウム発表. 提案要旨集録, 92頁~93頁, 昭和37年
- 15) 小松寿子 : 僻地の小中学生および盲, ろう学徒に関する保健体育資料—高知県における調査から—, 1頁~53頁, 昭和37年
- 16) 唐岩 覚 : 僻地教育を振興させる学校保健について. 第10回日本学校保健学会総会講演内容抄録, 16頁, 昭和38年
- 17) 小松, 岡本, 山中, 広瀬, 工藤 : 興津小中学校児童生徒の健康を支える背景についての調査成績. 第10回日本学校保健学会総会講演内容抄録, 16頁, 昭和38年
- 18) 小松, 高橋, 朝生, 下司, 山岡 : 高知県保健教育の直面する2, 3の問題点——興津小中学校における調査を中心として——. 第10回日本学校保健学会総会講演内容抄録, 16頁~17頁, 昭和38年
- 19) 広瀬和子 : 高知県内の現場における学校保健上の問題について. 第10回日本学校保健学会総会講演内容抄録, 17頁, 昭和38年
- 20) 小松寿子 : 課題研究僻地教育の問題—高知県における僻地の保健教育について—. 中国四国教育学会第15回大会発表, (中国四国教育学会紀要掲載の予定) 昭和38年
- 21) 小松寿子 : 某後進地区における児童生徒の保健管理について——特に甲状腺肥大を中心として——. 学校保健研究, Vol. 6, No. 5, 30頁~36頁, 昭和39年
- 22) 小松, 佐野, 松村 : 高知県内僻地の1例として宿毛市沖の島町小中学校における保健の実態についての考察. 高知大学教育学部研究報告, 第16号, 71頁~105頁, 昭和39年
- 23) 小松, 岡本, 広瀬, 工藤 : 僻地における教育環境の実態——とくに興津小中学校児童生徒の健康を支える背景について——. 公衆衛生, 掲載予定. 昭和39年
- 24) 小松, 広瀬 : 学校保健教育における簡易水道の課題. 健康教室, 掲載予定. 昭和39年
- 25) 富士貞吉 : 学校保健と公衆衛生. 第11回近畿学校保健学会講演要旨, 5頁, 昭和39年
- 26) 富士貞吉 : 学校保健振興の悲願と地域保健. 公衆衛生, 第28巻, 第4号, 187頁~192頁, 昭和39年
- 26) 小松, 柳瀬, 岡本, 広瀬, 田所 : 教育における地域性の研究——興津小中学校を中心とする保健教育にみられる僻地性の問題について——. 日本教育学会第23回大会発表予定, 昭和39年8月
- 27) 船川幡夫 : 学童における心臓疾患. 学校保健研究, Vol. 3, No. 7, 8頁~14頁, 昭和36年
- 28) 小児起立性調節障害研究班 : 学童健康シリーズ No. 1. 起立性調節障害. 週刊医事出版社, 昭和36年

(昭和39年7月2日受理)